江戸名所図會

巻三

十

124
20
114

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

江戸名所圖會

124
20
114

三十

東京圖書館

和書門	地理類	一函	六架	二〇號	二〇冊

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

武蔵國総社六所明神社　府中驛路の左側にあり延喜式内大麻止乃豆乃天神社是なり後世ふ至るまで尚ふ武内小野神社を合せ祭る故ふ今両社一社の称あり神主ハ猿渡氏其餘社司社僧皆奉祀す

本社　祭神　大已貴命　相殿　素盞嗚尊　伊弉册尊

摂社　祭神　天下春命　大宮女大神　布留太神　以上六神これを総ふ六所明神と称せり

祭神　瀬織津比咩命　稲倉魂大神　以上三神これを客来九神合せて共六所宮と称す此三神の内八一宮と小野神社との条下ふ詳なり

延喜式神名記曰　武蔵國多磨郡八座

大麻止乃豆乃天神社云云　武蔵國風土記曰　多磨郡

東

御産氣武衛渡御中畧為卿祈禱被立奉幣御使於武藏六所宮

鑑曰　所祭大已貴命也安閑天皇乙卯始奠宮社花時以之新稲祭之云云

治承六年八月十一日己酉及晩御輦所有

大麻止乃智天神　圭田六十七東六七町

伊豆宮根両所権現并近國宮社

喜式神名記曰　武蔵國多磨郡八座

大麻止乃豆乃天神社云云

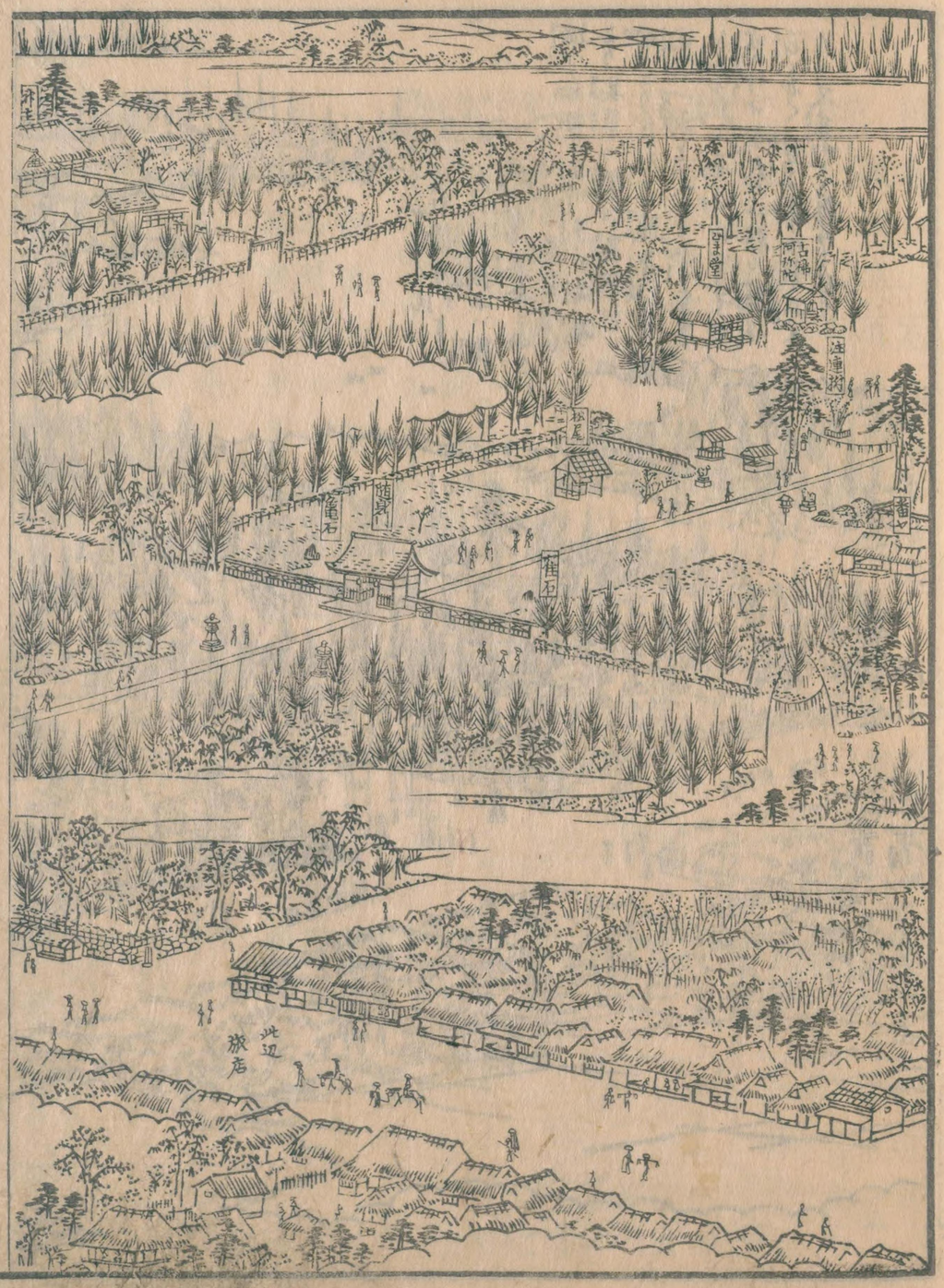
多磨郡

圭田六十七東六七町

奠宮社

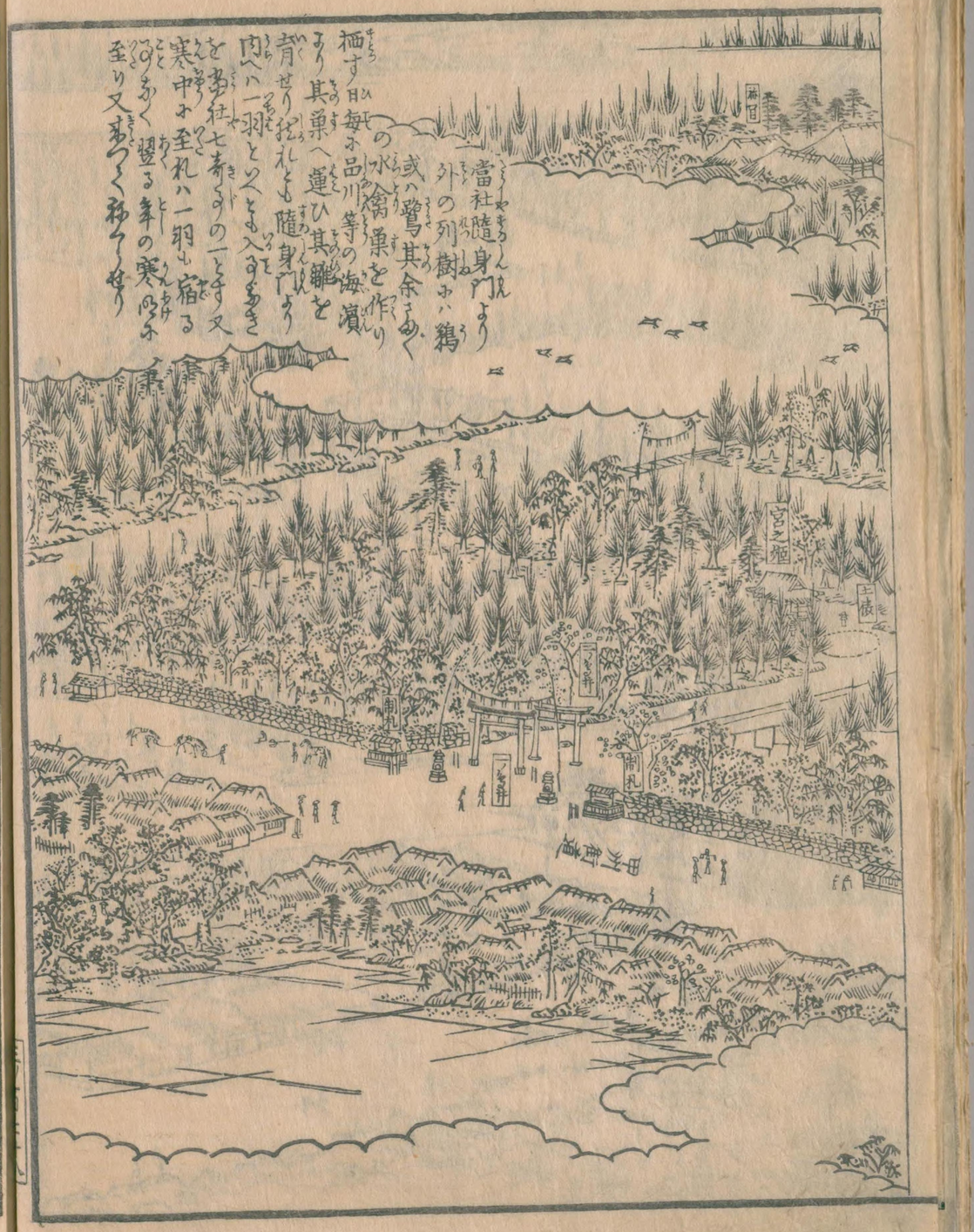
花時以

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用



同書曰　寛喜四年二月二十四日武蔵國六所宮拝殿破壊有修造之儀武蔵左衛門尉資頼奉行之云云

本地堂　本社の左よりあり中ハ釋迦大悲者経ヲ讀修ス此堂ハ六角寺ゆゝこれをあつる

神輿庫　同一基のうちにあり法小九基を収む八基ハ神輿二神

阿弥陀如来銕像　同左ハ並よりあり高七尺ともの座像なり上ハ假天井ニ而

覆の堂を建り佛像の肩ニ銘文あり文字ハ高く鑄

す上ニ又同一様ニ文字を鑄上せり里諺ニ云く

秩父の庄司重忠愛妓の菩提の為ニ造立せしと

陀と云ふ故ニ云ふ所ありしを後ニ云ふ所ありしと

漸く重忠の造立ニあらざるを考へ得たり重忠ハ元久二年武蔵國二俣河ニ

伏せり建長五年ハ元久二年より四十八年を歴る後の年号なり又云ふ

人の説ニ此銅像ハ當國の國分寺ニ安置のものを此寺ニ安置をとゝ

ふ拾置ともいへり文左のごとし

大勧進念阿弥陀佛明蓮　大士藤原助近

右志者過去二親并行疆□新發意乃至

法界衆生平等利益奉鑄一丈二尺佛身

建長五年癸丑二月十八日丙寅彼岸初日

護摩堂　同一並よりあり不動尊の像を安置せ社僧明王院これをあつる　御供所　本社の前

右ニよりあり

東照大権現宮　本社の右ニ安座せ元和四年戊午ニ創建とゝ

注連樹　本社の後蒼林の中ニよりあり欅の枯株やゝ数十圍あり相伝

上古國造此邊より社參あり一頃門戸のあり一社
ある注連を引廻し内に
の木像を宮之姫社隨身の前左の方に
本社の后妃の神なり例年七月十三日近邑の神職來集り
なり頼朝卿の下知ありそうろうと
馬場一の華表の内左右森の外より東の方
一條の馬場あり又大門甲州街道と
仍馬毎歳五月三日より始り九月晦日を終る
馬市を建く以警す此地の馬市ハむかし
帝闕より東二十五匹を集く人民市をなすとなり此馬
浅草の藪の内と麻布十番との二所へ移されそうろう
詰此所の場ハ今も江戸馬口労頭る
東照大權現宮へ參詣す

制札

社前大路の入口ふあり
慶長年間ふ建らるゝと云

掟

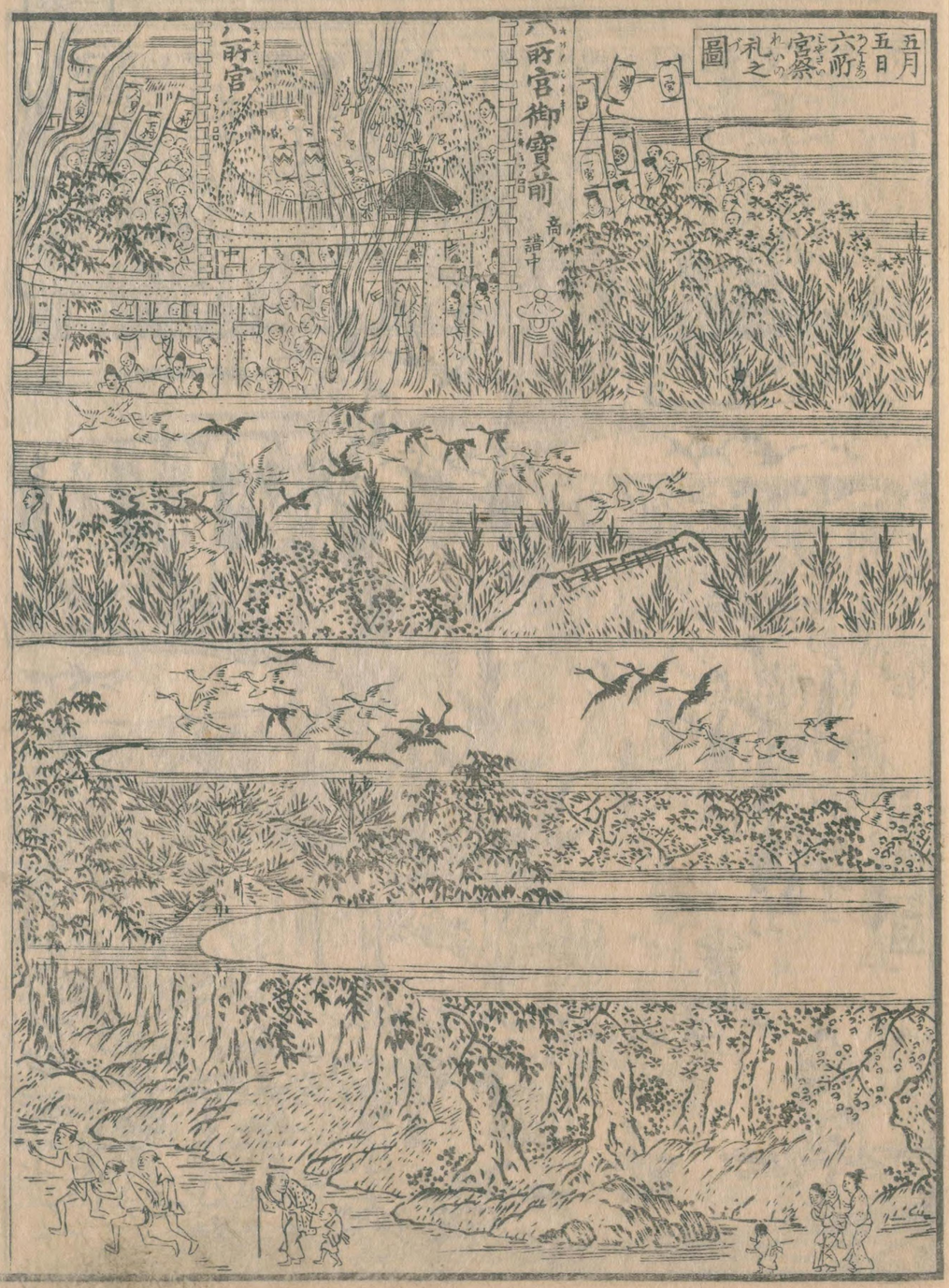
一此所ふおゐて馬町等事
五月三日より初め
九月晦日を限るべし
緋器ぢあるものをおゐて
ハ堅く禁ずべし若違背の輩
ハ速ふ下知を加ふべき者也

月日　奉行

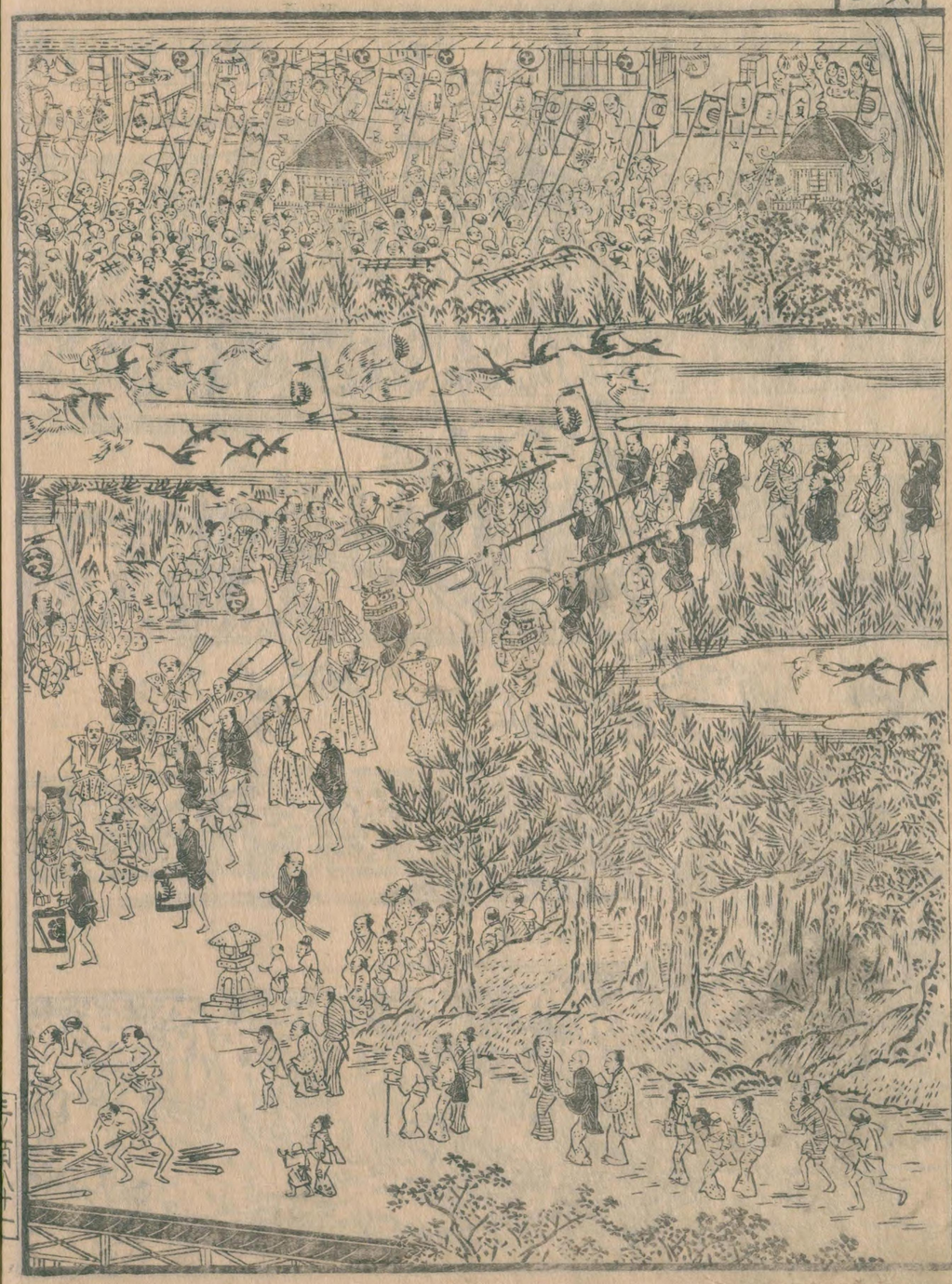
競馬　毎歳五月三日の夜六所宮の御旅所の前甲州街道府中番場宿の大路ふおゐて
駒役の者十二疋の駒ふ乗り燈火を消し暗夜ふ乗り競ふ此夜社家ふ
葦檢使として御旅所の神樂同月四日拜殿ふおゐて修行す
傍ある假家ふ伺候す大神事同五日ふ修行す
殊ふ恐れかしこき神官各四月二十五日品川の海濱ふ至りて
有ふ當日ハ終日神乘を祝ひ社家一統神主の宅ふ集會
手後神殿ふ至り神勇の大祝詞を捧げ終く日より禁足
まる神輿ハ基の内七基ハ二の華表の前より
燈火を消し暗となりて神輿をそこ
一基ハ隨身門の前より左ふ折れ甲州街道の大路を西へ渡し
辻の此旅所へ遷し府中本町の方より出く番場宿の角札
此間社家の輩馬ふ乗り下河原ふ漠座の津保宮ふ至て
深秘の神事ありて大幣を捧けふを來く御旅所の式終り
神主假渡氏農夫野口との家ふ假家を設け神輿
出現の時一夜この家ふとゞまり
我侭ふ此野口と称する家ハ往古大巳貴命始てこの地ふ
降臨ありそうろう又同し農家岡野とゝのへ夜門戸を閉て深く
愼み居そうろう

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用



旧例なり此家八大巳貴命出現の時宿を求こまひしことゝ思ひのありて一家
職れをうしふ八辞しやせしの古き例を改すしてかくもるゝことゝなり御旅所の
神ゐ旧式こそくく終るく祢宜本社よ帰り還幸の儀をなせり神主八神馬ゐ
乗し侍旅所の前ゐおゐて流鏑馬を射なり社壇より市店ゐ至るを一時ゐ燈火を點もろ
ろ先の爵ろゐ八馬上ゐて前驅くり帰興ゐ及むて二鳥居の左右と本社の前随身門の前西の
馬場丈場の方へ至るの間等すくく四隅又神輿供奉の道路を照すゐの桃灯むく多くくて実ゐ壮観う
事 同六日ゐ修行を祠後百歩あまりを隔て南の方の稲田ゐおゐくこゝを
祓ふ秩と持一来るく田上ゐ集り一朝ゐ挿終りて後或ハ躍り或ハ角力を
催しそ鳥ゐとりくゐり依秩そくく泥ゐ浸きるくも明旦ふ到れハ勃然として
起又そ種を異ゐすとゐ終ゐ穂を同くく一節の進退ゐより違ある歳と
しそ順るくろるなく水旱蝗蝗の災なく当社七奇るの一ことそ
天下泰平神事 六月廿日ゐ修行す 栗饋を供し神乐を奏そ康平五年
此日を以く小祭 七月七日ゐ修行す 俗帷子祭又ハ帷子市とも称うるハ古此辺多く
祭ることゐ 麻布を 六月廿日頼義義家西公奥州発向の時戦勝ありしより
都ふ貢まゐそ餘のくものを八此地ゆくく交易せしゐり中ゐ 産業ともそ頃此府ゐ出て
あるとゐり 七月七日ゐ國守の撰ありそ
ゐ絆 此名 天下泰平神事 七月十二日十三日両日の間宮之姫社と本社とふ
ゐり 田面神事 八月朔日終日神田の豊熟を祈る此日射方を奨
こくくこゝりことを奉ふ遑あるすのこと
社記曰 景行天皇の四十一年辛亥五月五日大巳貴命此小野縣に



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

六所宮　田植

五月六日八所田植の神事を武蔵國の人民早苗を携へ来りて神田の是を挿やり郷童白鷺の形を造りものゝ蓋鉾をさゝげそせんとのこゝしの傘と唄ひ囃ハ又さをとものいこれもと唄ひて今植並

一田の中ふ下り立て早苗を踏〳〵唄こひちまきれく踊躍かゝ有しやも伊勢ひちの中ふあつてこそ一秋のもちふいとめでたく起立く葉末ふあひたゝんとしてうきりふ〳〵すうきりふ〳〵

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

出現神託あるより祠を経営して里人崇敬しきる
延喜式大麻止乃豆乃天神是なり
延喜式大麻止乃豆と〳〵風土記大麻止乃知と豆ハ通音かり又大知と称へきと麻止を以て於保麻止とし或ハ布止麻止多麻止なとかるゝ〳〵ふ称へきり
成務天皇五年乙亥兄多毛比命をして此地ふ國造〳〵〳〵しむ
天穂日命の孫出雲臣祖名二井宇迦諸忍之神狭命十世の孫なり
因て茲ふ府を開きゝゆゑ府中の鎮座なる武蔵國の國造の権輿なり
又大巳貴命ハ此地出現の霊神あれハ是を崇て祖神なるを以て
素盞嗚尊を合祭し
兄多毛比命ハ出雲の臣の祖なるを以のゆゑふして當社祭神の内殊ふ素盞嗚尊を崇きゝ神祕ありと云
相殿ふ伊弉册尊瓊々杵尊大宮女命布留大神等の四神を配祀し新ふ此地ふ宮祠を経営ありく圭田を附して以て國社とあし
此を称して六所宮大麻止乃知天神と云又天下春命一宮の祭神なり詳ふ下ふ条下ふ詳ふ
瀬織津比咩小野神社の祭神なり詳ふ下ふ条下ふ詳ふ
倉稲魂大神小野神社以上の三相殿の祭神なり
神を六所宮の相殿ふ迁座なして客来三所と称しきり是を
祭るふ國社の禮を以す爾来大麻止乃知天神小野神社二社合
祀の社とそあゝるゝ〳〵なり
安閑天皇乙卯年ふ至りてハ春冬〳〵然ふ星霜を歴て康平
二時の祭祀を行ふ〳〵由旧史ふ
五年ふ至り源頼義義家両公奥州安倍貞任宗任一族征伐
發向の時當社ふ詣あり軍の勝利を祈願ありて夷賊平治
凱歌の時報賽とし〳〵一華表の内左右両辺ふ榻数株を種し
めて以成功を謝しきる其列樹今存せり
詣て請禱し大ふ戦勝の功あるを
壽永年間継嗣を求め頼家公を儲く葛西三郎清重哉
しして神器を献せしむ寛喜四年武蔵左衛門尉資頼を命ける
所の祭祀今ふ連綿として廃せす衰へす敬就中
将軍家相継て崇敬ありて當社破壊の修理を加へらる
後足利家ふ至る迄世々
信あり社領五百石を附し御祈禱のことを命せらる関原
大坂の両役ゆる當社の神主猿渡左衛門佐盛道をしく御勝
利の御祈禱を修せしむ御感状御直書を給ふ後二代

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

将軍家よりも又御書判の御直書を給ふ殊ふ御在國の
總社〻を以て慶長年間石見守大久保氏某をして神
殿を新ゆ〻國家の祀典ふ列せしむ且命を下して馬市北
法則を定給ふ後正保三年府中本町より火出て當社神
領の地ふ至る迄皆悉く焼亡せを依て寛文七年丁未大和守公世
廣之侯をして造營使として宮社御再建ありし
寛永元年注せるの社記云神主猿渡三河守藤原盛正天正年間北条陸奥守
氏照の為ふ八王子の城ふ籠る此城没落の時盛道こゝふ戦死を又此処火の災ふ
かゝりて當社悉く灰燼せり加ふ戦死を頃世く將軍家の證状或ハ秘蔵の神宝等
六所宮御旅所　六所明神より一丁半を西の方府中番場宿の
中程相摸街道への岐道札の辻の傍ふあり毎歳五月五日大祭礼
辰ヲ夜六所宮の神輿をあらゆる辻ふ渡る其式ハ前の条下ふ
詳なり
御田　六所の宮の後の小径を過て百歩ふあり豁然ふる稲
田なり東ハ悠遠ゆ〻く眺望分明なり南ハ多摩川の流を隔
て〻長岡の上ゆ短松の立ちをそふる世ふ所謂向ふ岡是あり此
地北ハ府中の駅舎ゆ〻く六所宮年中行事の
下ふ詳なり
本覚山刻光院　真如寺と号て府中本町の南の小路ふあり新義の真
言宗ゆ〻く花洛仁和寺の御門跡ふ属せ清和天皇の御宇
貞觀紀元の年真如法親王の御願ふよりて〻慈恢僧正創
建ありて〻佛刹として行基大士彫造の地蔵薩埵をかゝるとし
長五寸五分若干の田園を附せらる然ふ當寺度〻の兵燹ふ罹り大ふ
荒廃なりしを永亨十一年己未法印宥源長禄三年己卯
再建して當寺中興の開山となる天正十九年辛卯御當家
家帯の額真如寺の三大字ハ勝仙院僧正日光の筆同じく向拝
ふ掲る本覚山の額ハ南山の沙門秉鎮の書裏門本覚山の額ハ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

明光院 安養寺

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

天崎の筆書院無為心の額ハ佐々木玄龍の書なり観音堂ハ
門の入口左の山北上にあり大悲殿の額ハ僧禅大僧正覚眼筆と云
本尊十一面観音の像ハ丈六長二尺五寸ありて聖徳太子の作といふ
當寺什宝ハ北条氏照の書簡二通を蔵む其餘芦ハ驚ハ画
幅ハ御筆の物やして牡丹唐草ハ扇を縫物にする五條の袈裟
と共ハ御當家より給ハりしものなりと云
古磬一枚 華物やして銅色變ぜし 墓ハ
左甚五郎ハ作なりと云
睿光山安養寺 妙光院の南の小路を隔てゝ同じ並びにあり 此地の小名を矢の崎と天台宗上州世良田の長楽寺に属ハ本ハ阿弥陀ハ来ハ
座像一尺六寸ばかりあり作者詳ならず永仁年間ハ海上人中興
開山なり近き年地魚の災ハ罹ざるハ旧記を亡ぜしゆゑ
武蔵國造兄武日命殿舘旧跡 妙光院の前北岡を云上古國造居舘
の地なり 御入國の後此旧跡ハ省耕の御殿を建させられしより
大樹屢こゝへ渡らせられしゆゑ正保三年丙戌十月十二日府中
本町より出火して此御殿焼亡せり 後ハ御再興もなくふるより享保
年間里民のこゝに住せ陸田となし下されしゆゑ故ハ土人ハ御殿地
と称せり此所の眺望右勝ればなり

（按ハ國造ハ神武天皇都を大倭國橿原に定め天皇の位ハ即ち時葛城
國の造を定め其余功ある者ハ國造を賜ひ又縣主を定めらるゝより
代々ハ任せられし和銅の比を總任の國造百四十四箇國ハ毎ハ國造一人づゝありて神祇祭祀を掌どり民事を治
（嵯峨天皇より以後諸國ハ分割併省なり六十六國ハ対馬の二島壱岐ハ要害の国なれバ六十六國ハ本ハ
仁徳帝の御宇より遠江國司ハ又崇峻帝の御宇より河内國司ハ聖徳太子の
憲法にも國司國造のことをいへり天武紀より諸の國司國造郡司抔ハ百姓等とあれバ後ハ又國
司を置ハ尤國司ハ國造より位高く権重きゆゑ國造と次第して称せられしとぞ
これより後世々の國史にも往々國司國造のことを載られしかバそれの世ハ國造を置れ
しことハ廃せしとぞ思ハる）

是政村

府中の南多摩川の北の岸頭ハあり此地の里正小井田氏の人あり
其家系を按ハ祖先ハ畠山庄司重忠の四男井田四郎重政の末葉にて
小田原北条家の臣井田摂津守是政子孫なりと云天正十八年小田原
没落の頃八王子の城敗れしより後此地ハ住を依て是政村の名あり

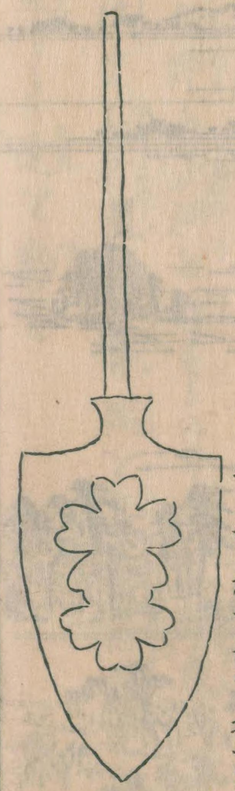
悲願山善明寺　圓養院と号ス府中本町より開戸へ行道の右側ホ
あり　相模街道ニて古の泥龜通道へ　天台律院ゆゑ常明院ヨ属セ本尊ホ阿弥
陀如来の像ヲ安ス坐像一丈六尺あり胎中ホ慈覚大士彫造の霊創年
久く中古寺院荒廃して記録ヲ失セ然ホ近来編無為解脱居士
俗称依田伊織貞鎮　當寺ヲ再興あり〳〵證海上人ヲ中興開山とし田園
等ヲ寄附せり故ホ居士の肖像あり東帯の像なり側ヨ内陣の額ホ
毗尼蔵とあり准后公遵法親王の筆なり解脱居士の墓ヲ
堂後ホあり彼岸山文庫ハ本堂の右ホあり庫中収蔵ヲ左ノ
書籍ハ解脱居士の筆書中ヨセ〳〵百二十二箱あり（此文庫ハ収むる所の書籍目録一冊あり）

津保宮　同所四丁ヲ隔り西南の方下河原農民の地ホひろく當社ハ國造
の霊社なりといふ今猶ホ茅祠ヲ存セるのミされと毎歳五月五日六所
宮大祭の日ハ當社より六所宮へ奉幣使ヲ立るヲ旧式ゆゑ則六所
宮の神官馬ホ乗し〳〵是ヲ勤む

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

按ずるに津保ハ壺の訛ゆゑ〳〵つちきことのみ意なるべん源氏物語桐壺巻よ
其のつぼせんざいと有りさるを植ゑをきて人らるゝをつぼ
元年ゟ壷前栽ゟ
云かゝる〳〵當社も古より國造の廟ゟありしと宮居ありし壺と
紀傳等る分倍よ作る分梅ゟ作る八年ゟ證をもて
分倍河原　同所の南代小川を隔てる耕田をいふ太平記鎌倉大草紙南朝
戦あり〳〵地ゆゑ年ゟ時討死せし人の墓あり　土人首塚胴塚なこ称へ
享徳四年の春も鎌倉成氏上杉房顕なるひゟ持朝と此地ゟて
今猶此石の四面ゟ存す
争戦〳〵大ゟ上杉勢敗北せ又享禄三年の夏ハ北条氏康向ふ岡の小澤
の原ゟ兎〳〵上杉朝興ハ多磨川を前ゟあて陣をとる両軍府中の驛
ゟ相戦ゟ此合戦ハ大平記鎌倉大草紙北条五代記等ゟ詳なり　此餘も度〳〵血戦あり地ゟて土人今も
遇此ゟの田間を穿て兵器を拾ふもの
なり

大サ圖の如〳〵
按の花ハ
透〳〵ふ
〳〵もの



三千人塚　六所宮より南の方十五六町許を開て道端よりあり三尺余り九
按ずるに古ゟ塚の上ゟ其中二尺八寸土より上ゟ出ず二尺八九寸ゟ餘ハ土中ゟ埋る
按石の古碑を建ん〳〵ゟ
朝〳〵大ゟる梵字一字
限を彫〳〵先の筆縣令の下知ゟより
此石碑を
を埋ゟ
享徳享禄等ゟ合戦ゟ於倍河原ゟて討死せし三千人の七回
享徳享禄等ゟ合戦ゟ於倍河原ゟて討死せし三千人の七回
此地里正の口碑ゟ傳ゟ按に二慶
代小川　府中の南を流る西の方二里ゟまりを開て青柳村ゟ多摩
川の水を分く此辺耕田の用水とす
と号く今の代小川ハ即往古の小川の変称なん欤とゝもゟ
いふ

陣街道　小野宮と分倍との間の耕田の地ゟ〳〵府中本町ゟより関戸へ
按ずるに慶長年間官府ゟより六所宮へ寄たる書の中ゟ六所宮川端ゟあり
注されたる八年頃多摩川の水流数條ゟありて今ハ流ゟ
行道の名とハ背奥羽等の國〳〵ゟより鎌倉ゟ或ハ大磯ゟ抔への往還ゟ
道ゟて鎌倉ゟより北國東國へ軍勢を向ら〳〵頃の通路なり〳〵

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

小野神社

三　延

武藏國風土記曰小野神社舊址小野宮村陣街道の右ふあり今絶ゑ叢祠を存るのみ

小野神社　小野宮村陣街道の右ふあり今絶ゑ叢祠を存るのみ

六所宮の条下を詳し合せ考ふるに小野宮村陣街道と唱へ古街道は北田間の塚ハ中古の甲州街道府中より日野へ往還の一里塚ゆゑ小野宮の野徑を開發の始ハ瀬田數五反程ありしとく土人五反田と字せりといふ又小野宮の地籍田と成りし八元亀天正の頃ゆゑんなるべし小野宮の耕田をさして向田よりくの田地小野宮村より良ふ當れる地をもつて分倍より府中本宿の内小野宮村陣街道を隔て分倍より府中の方へ僅よ家數三十軒ばかりありしを小野ハ上古郡村名なりしを小野宮とよくまぎれを生ずるゆゑ小野縣と称せしより是なり今ハ府中の舊名となりより和名類聚抄に多磨郡小野乎乃とあるも

小野神社舊址

古街道と唱へ

延喜式神名帳曰　小野神社　光孝天皇　仁和三年甲午始行祭禮有神戸巫戸等云云

實録曰　多磨郡八座

代慶八年七月十五日癸酉授武藏國從五位上小野神社正五位上云云

元

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

社記云當社祭神上古ハ瀬織津比咩一座なりし小一宮下春命を
迁座なしまつり又倉稻魂命を配祀しそ小野神社を三神となしまゐ
らせしるハ其時世もろ〳〵最舊社なるを以て 成務天皇五年
乙亥の秋諸國ゟ令しく國郡ゟ造長を置るゝ時兄多毛比命も
詔をまつり當國の國造として此地ゟ至て小野縣ゟ府を開きそのひ
しより後崇敬厚く再ひ當社の御神を六所宮の相殿ゟ迁しまゐ
らせらるゝとぞ(六所宮ゟそも客来三所と称するものハ即是なり下春命も
六所宮ゟ客来三所の内 後ゟ迁座の御神あれとも却て是を祭しと云
下春命を第一とせり)
其舊址を標するのこなりと〳〵ことを實ゟ千載の古を想像つゝ
擁拈樹 社の後ゟあり今蟠根を存るのこせしも藥既ゟ枝高く聳へ天を摩し殆二十餘歳の想あり
神道 多麻川の南一宮より此地小野神社へ通る田畝の径路を云
古一宮御神より小野へ迁幸の時の旧路ゆゑ中古迄ハ一宮の祠官
此路を経て小野社ゟ至り然して後六所宮へ来りしとぞ其頃ハ一宮
より空輿を舁来れるゆゑ小野宮邑の里民擧て多麻川の岸頭
まで送り迎せしより一宮祠官の口碑ゟ傳ふ
小野牧 今ゟ所ハ府中の北國分寺の邊より小川砂川の間の農
田となりし地其牧の舊跡なりと云傳ふ
名の条下 往古當國の國造年ゝ八月ゟ至りハ此地ゆく駒を撰て
ゟ詳なり
鳳翮ゟ齎しくるとなり公事根元ゟ八月廿日武蔵國小野御馬
四十疋をゐるとぞ(六所宮馬市及ひ馬場の
条下ゟ洋なり合せ考へし)

拾芥抄曰 年中行事部
八月二十日牽武藏小野牧名
又同書 小野
石川 由比 左右馬寮 式曰
延喜式 御牧 武藏國
石川牧 諸牧 駒牽 由比牧 毎年九月十日臨牧檢印 共署 其帳簡繫 月附牧監等貢
右等信濃監武甲斐國仕野別當國調良明年 立野牧 司與牧監若 別當人
歯若不歳已上者便充驛傳馬下略

又
同上書曰

凡年貢御馬者中畧武蔵國五十疋諸牧三十疋立
凡諸國所貢繋飼馬牛者二寮均分検領訖移兵部
省其數中畧武蔵國馬十疋下畧
此余北山抄西宮記中右記猶多外ゆゑ小野の牧の名往々そこ〳〵に悉く挙がたし
年中行事奇合
むさし野をわけこし駒の幾多ゐ原ふ出ん　頓阿

諸源山称名寺　府中番場宿北の横小路の右側よあり時宗みく
相州藤澤の清浄光寺ふ属せ本そふハ恵心僧都彫造の阿弥
陀如来立像三尺八寸あまり七霊佛を安せ此地ハ往古六孫王経基
居舘の舊跡なりと云伝へ中古ハ六孫王山と号せ経基寺と号せ
一光道和上人當寺を草創を応永元年後後遊行上人當寺を
再興ありしより當寺ふ古き大鼓の胴を収む尤古物にし
内よ年号等を記せるゆゑ文字讀ミ兼ぬ按ふ往古の陣太鼓ならん

龍門山高安護國禪寺　等持院と号六所宮御旅所あり九丁そを
を隔て西の方甲州街道の左側よあり洞家の禪宗ゆゑ多
將軍の肖像あり　當寺其先ハ市川山見性寺と号せ當寺を秀衡
麻郡二股の海禪寺ふ属せ本そふ釋迦如来佐丈一尺五寸斗脇士文殊普
賢の像賢俊法眼の作なりと云當寺ハ俵藤太秀郷の開基
ゆゑ秀郷の宅地の旧跡なりと云ゑ後足利將軍尊氏公
中興あり故ふ当氏公の法号を採て等持院と称せ則尊氏
辨慶硯水井　堂後の竹藪よあり今稲荷明神ふ勧請を
藤原秀郷靈祠　境内坤の方よあり此地ハ秀郷の宅地の旧跡なりと云
今ハなし　又弁慶の画きし掛幅あり絹地ゆゑ甚古雅なり
架もゑ糸の褸をも弁慶褸と号け東の方ハ水戸黄門光國卿の撰ありし
弁慶此井水を汲んて硯の水とし大般若経を書写しを弁慶机よりし経を書写しを
弁慶ハ焼失しを然ゑ経ハ西北の方甲州街道ふ弁慶坂と呼ゑ云東西南の三方今も堀
本堂ふ武野禪林の額あり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

史みと除さめひしを名ありく実なく燈とそくさなけをた
観音堂表門を入て正面よあり柱ろ
六観音の像ハ何れも四尺五六寸あり作者詳ならす
當寺ハ足利家の再興より永徳元年鎌倉左兵衛督氏満小山
義政退治として發向ありし頃も當寺を陣座を儲けらる又應永
六年ハ左兵衛督満兼周防の大内助義弘ら京都ゟ於て逆心を
起せし時同十一月廿一日京都のゑ合とゝく當寺を動座なしゆひ
十四日持氏公鎌倉へ還御ありしも當寺ハ鎌倉大草紙ゟえ
當寺什宝の中ゟ往古ゟる氏公陣中ゟて用ひられしと云古き銅鑼一口あり
たり近頃紛失なしとゝく今もそんす
同三十年癸卯春も又常陸國の住人小栗孫五郎平満重ら謀叛ふ
石上山弥勒寺般若院と号ゟ高安寺より六町あまり西の方同し
より鎌倉持氏公結城へ發向同年八月小栗落城の後同十六日
街道の右側ゟあり真言宗ゟて府中の妙光院ゟ属を開創ゟ
當寺ゟ帰座同三十一年十月廿三日當寺炎上ありしハ同十一月
始久しく今ゟゝふあゝゟて永正二年乙丑権大僧都法印良ゟる
中與ゟ本ゟる大日如来ハ一尺斗の座像ゟゝく作者未詳當寺ゟ
津戸勘解由左衛門尉菅原規継墓あり

墓碑如圖

津戸勘解由左衛門尉為守の氏族なるん為守の墓ハ八王子の観泡山大善寺よあり今ハ幡宿の農民六右衛門とゝるものあり津戸氏按ふ此勘解由左衛門規継ハ其遠裔なりとゝく

津戸勘解由左衛門尉死去
延文五年七月十日
沙弥道継
門尉菅原規継

谷保天神社 同し街道西の方谷保村道より左側よひり
別當ハ安樂寺と号ゟ祭礼ハ毎歳二月と八月の廿五日又三月十五日
ゟハ開扉あゟて十一月三日ハ當社往古天神島と称ゟる地より今ゟ
地ふ迂座なしゟて縁あり此日ゟ小菜供を献備るとゝく
本社祭神天満大自在天神一座神躰ハ菅家第三嗣菅原道武

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

やつこんしん谷保天神社

社内(しゃない)に常磐(ときわ)の清水(しみず)と称(しょう)する霊水(れいすい)あり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

清水立場

甲州街道の立場ゟして此辺にてかくこそ清泉涌出るゟ[左]に清水村の称ありと云此地ゟ酒舗ありて店前清泉沸流を夏日ハ索麺を湛て行人を饗應せり故ゟ此地往来の人こゝゟ憩ひそ炎暑を避さるハなし

朝臣の手刺なり

額　天満宮　後宇多天皇勅世尊寺経朝卿筆

額の裏ゟ左のやうさの二十四字を刻せり又外は同し額の写し一枚あり水戸黄門光圀卿こゝをま納なしゐひとそ裏書ゟ元禄三年庚午眉毛軒河埜門入敬謝とあり経朝卿の筆せれし額の背面ゟ曰

建治元年己亥六月廿六日乙丑書之

正三位藤原朝臣経朝

常盤清水　裏門出口道の端ゟ小さき池あり中島ゟ弁財天を安置せ清泉湧出紫の僧某當社へ詣し項和哥を詠ゟ日用の助とせり延宝年間築本地堂　本社の右の岡よあり観音の像ハ慈覚大師の作と云　道武朝臣霊社　本社の後ゟ十一面と称す

社傳云昌泰四年菅公筑前の太宰府へ左遷の時卿三男菅原道武朝臣も又此地ゟ流さるゝさせのひ三年の星霜を経のひしゟ延喜三年二月二十五日父君菅公筑紫ゟ亡ひぬとそ悲歎のあまり配所の徒然ゟ父君の御像を手親摸刻しのひ旦暮在ろ

如く事へ茅道の誠を尽さゝるひしを後よ一社よ奉しまつる
となり　昔ハ大社ゆゑ僧房も多かりしとぞ櫻本坊松本坊滝の坊以上六坊中古迄も猶残り今ハ滝の院一宇天暦ゟ至りてハ村上帝狛犬一雙を寄附ありしとぞ其の一ツ存せり是古の滝の坊ならん　今猶存せり甚の古物又大般若経四巻を収む源義経朝臣北条の奉納なりと云　伊勢三郎亀井六郎及ひ弁慶等の四人書写せしの経巻なりとぞ

菅原道武朝臣舊館地　同所二丁許南よあり空堀城門の跡と覚しき所ゟそく四方二町あまりにて封境なり土人三郎殿屋敷跡と称す相傳ふ三郎道武此地ゟ住し當地の縣主上平太貞盛の女を娵して一子を得たり其子を菅原道英と号く津戸為守の祖父なりと号く（道武主貞盛の娵りしハ未考）

假家坂　同所安樂寺の門前百歩計街道の西の方へ向ひて上る坂を云

建治二年奉幣使此谷保天神の宮へ下向しの頃假ゟ旅館を設け

建久六年二月南都東大寺供養の為将軍上洛の供奉して同三月洛に入同廿一日法然上人の庵に参り念佛往生の道を承りて同十一月十八日結願の夜瑞相の奇特を感じ上人より贈らるゝ所の法名を頂戴し建保七年竟に出家をとく其先上人より賜はる念佛を修せんと号を仁治三年十月廿八日より三七日の間如法念佛を修せんと号を仁治三年十月廿八日より三七日の間如法念佛を修せんと高声に念仏し初夜の終に臨終正念往生の素懐を遂げ畢ぬ

同十一月十八日結願の夜瑞相の奇特を感じ上人より贈らるゝ所の法名を頂戴し建保七年竟に出家をとく其先上人より賜はる念佛を修せんと号を仁治三年十月廿八日より三七日の間如法念佛を修せんと高声に念仏し初夜の終に臨終正念往生の素懐を遂げ畢ぬ

七五臓六腑を取出し薫修

芝崎普済寺

境内ハ延文年間ノ創ニシテ當寺ノ六面ノ石塔ヲ存セリ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

靈牌ハ當寺ニあるとも其墳墓の所在をしらず
佛殿 惣門の内ニあり本ハ釋迦文殊普賢二尺斗共ニ作者をしらず
其記ニ平重能平義親平高親等の名を記せりとぞ
五十嵐市左衛門感状曰
景虎陣ニ加三田彈正忠政定先陣而大幡ニ
陣所八王子塚ヨリ北条氏照ニ及一戦候ニ依テ所ニ五十
嵐市左衛門竹田新八郎ト云武士ヲ討取二番着到
賞功不跡時芝崎三十貫文所ヲ被仰下者也
依如件
永禄三庚申年三月七日　立川宮内亟能在判

開山大定禪師真像座下之記曰
彩色啓端造立助縁芳衛辨翁啓範宗來啓一宗華
宗義啓瑞宗順啓勝宗範啓壽毒性了宗宗快翁
塗師行盛佛師上總法橋朝宗幹縁比丘啓達
應安三年戌十二月三日敬記

當寺境内北の方ハ往古立川宮内大輔某の宅地たりしとなり
數年合戦の地ゆゑ今猶林中ニ首塚と称するものある八雲謂
と云今も隍の跡と覚しき地存して矢の根の類の武器を掘出すことあり又慶長の頃立川兼賀なるもの人ありしとぞ云宮内大輔一族なるべし其
豊太閤の朱章あるを以て當寺天叟宗祐和尚
御開國の砌寺領を乞奉り朱墨をもて又宮内大輔為討伐
佛閣を放火なしける静謐の後ハ修理をくわへ證状をもて
後住持覚栄宗理天叟の弟子
旨被仰下とのへとも遅くするうち先栄和尚改衣のゝ上京あり
途中迂化せり後久しく無住の寺となり朱章を欠と云然ふ
寛永の末住持大年といへる僧當寺ニ住せしゆゑ故ありて廣福寺
とへつゝふ退去せしと什宝の古文書古器の類を悉く持ち去れを

と云く今ハ寺の朱章を傳へ存するのみ

日本年代配合鈔曰
永正元年甲子九月廿五日立河原於山内顕定扇谷上杉朝義合戰太田下野守為レ始多兵死ス

南朝紀傳康正元年巳亥正月廿一日鎌倉成氏と房顕ハ定政上杉長尾景中と武州立川原合戰云々
小田原記云永正元年甲子九月廿七日駿河の今川氏輝并小田原の松田左衛門頼秀扇谷上杉民部大輔可淳入道并ニ山内の管領上杉兵部大輔憲房東ハ州の軍勢を催し押寄たゝかひ夜ふ入れハ山内の加勢と一く越後

多聞天王

持國天王

廣目天王

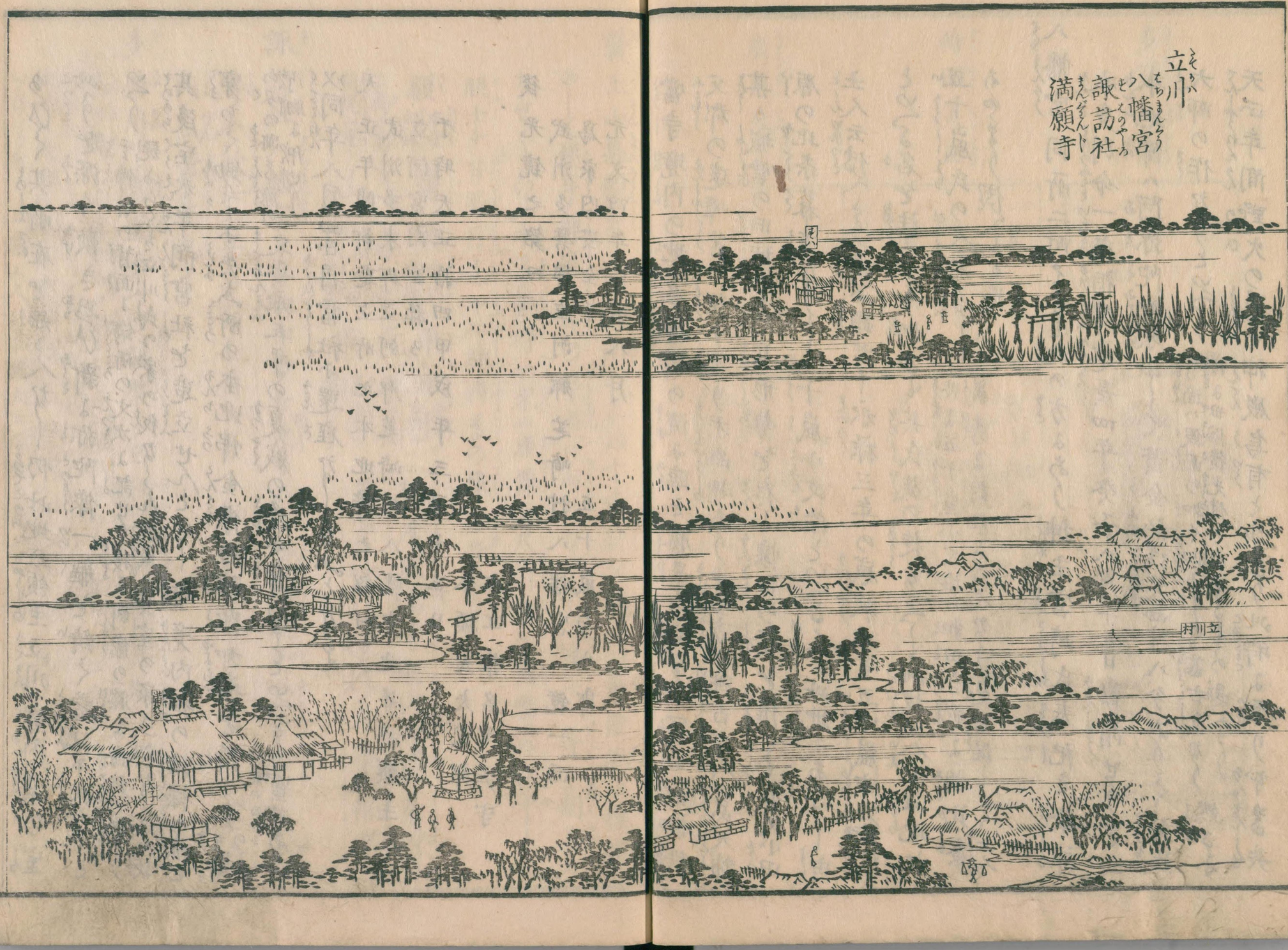
當寺境内の地ハ多磨川の流ゐ臨を勝景の地なり富士箱根秩父郡の遠嶂等一望ゐ遮り尤幽趣あり北の方ハ往古立川宮内大輔某ゝ城営の旧址ゆして其形勢を存し懐田の情を催さしむ又小田原の北条幕下なりし五十嵐小文治とゝる人も此地ゐありし由土人云伝へゝり前ゐ頭せし永禄三年の感状ゆと五十嵐市左衛門とゝる名を注しゝり何ゆも其氏族の徒なるべし此故ゐ今も此地に五十嵐氏の人尤多しあやまり伝へゝる歟

按ゆ五十嵐小文治ハ和田合戦ゆ朝比奈義秀ゆ討れゝる人なり是を混しゝ土人

八幡宮　同所二町そゝり北の方ゆあり神主宮崎氏奉祀ゆ祭神本多別命一座相傳建長四年癸子八月十五日勧請せりと云本地佛ハ阿弥陀如来ゆして黄金仏法丈四寸八分ありゝ弘法大師の作なりとゝゝり

背面ハ假面の如く被ゆ世俗後光佛と称ゆるゝ甚古色なり然るゆ天正年間野火のゆるゆ神殿烏有とあるより此時ゆ至りて失

立川八幡宮 諏訪社 満願寺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

のひく其所在を知る人なし仍此地の領主立川宮内某の室
此事を深く歎き思ひ新に弥陀像一軀を鋳く當社に収らんと
そ(の)(ま)ゝ佛躰の背面に鐫所の文次に記せり
疑ふらくは立川氏の家の秘なるべん歟或は其室の家の秘なるべん歟
其後宝永年間宮社を造立せんと せし時境内松の枯株の根を
穿ちく勘下に失ふ所の本地佛金像の弥陀如来を得たり時
の双の跡ある像の又安永五年の夏賊の為に奪ふ所と成ぬ
以同年八月當再當社に還座なし奉る
天正年間新造立所之本地佛之銘曰
武州多磨郡立河郷芝崎村八幡本地并與願主
立河宮内お孫ろ
于時天正拾四甲戌年三月十五日
本願大夫弐部
大工推名土佐守
後光鏡之銘曰
武州多磨郡立河郷芝崎村八幡宮
爲家内安全
五十嵐与八郎
元文四年己未八月

醫王山萬願寺 同所南の方四十歩計を隔て黄檗派の禅嵐
やゝて鉄牛禅師居住の草庵の旧跡なりしを後に一宇の蘭若と
なせしとの(ゝ)本尊薬師如来八座像三尺計恵心僧都の作(ゝ)
脱士ハ日光月光十二神将等の像を安せり

額 醫王山
本堂内向拝
額 家帯
ハ掲る當寺中奥別当
岳悦山筆
額 東光院
ハ左右聯の掛ル
掛ル黄檗
高泉の筆なり

諏訪社 八幡宮より六十歩斗東にあり祭神建御名方命一座相
傳ふ弘仁二年辛卯七月廿一日ハ勧請せしとの(ゝ)當社も宮崎
氏勉帯奉祀す

多磨川 當國第一の勝槩とせ
和名類聚抄多磨ハ作り太婆と訓ス
萬葉集多摩(ゝ)とす後世玉ハ作るものハ山城摂津
所の玉川と共ハあいはせく六玉川と称せしより
此川ハ武蔵の堺丹波山より発し多摩郡の丹波村ハ添て流る(ゝ)多摩川と
いひくなり日蓮上人注画讃大士臨終の時池上ハ移ハ(ゝ)条ハ武蔵國田波河

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

多摩川
六玉川のひとつ
ふくぐ今多摩を
玉まと作る

高尾山

芥村

矢の口渡

中の島

谷戸

谷口

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

其二

玉川ハ砥場廣
濶ゆゑて其流れ
一帯よおゝす多く
雨後抔ハ渡口
移轉して定
あらず西北ハ秩父
をよし甲州の堵
山を望み東南ハ
堤塘の斜よ連る
を見る鮎を付川
の産とす夏秋の
間多しかゝ常
ハ漁人絶せ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

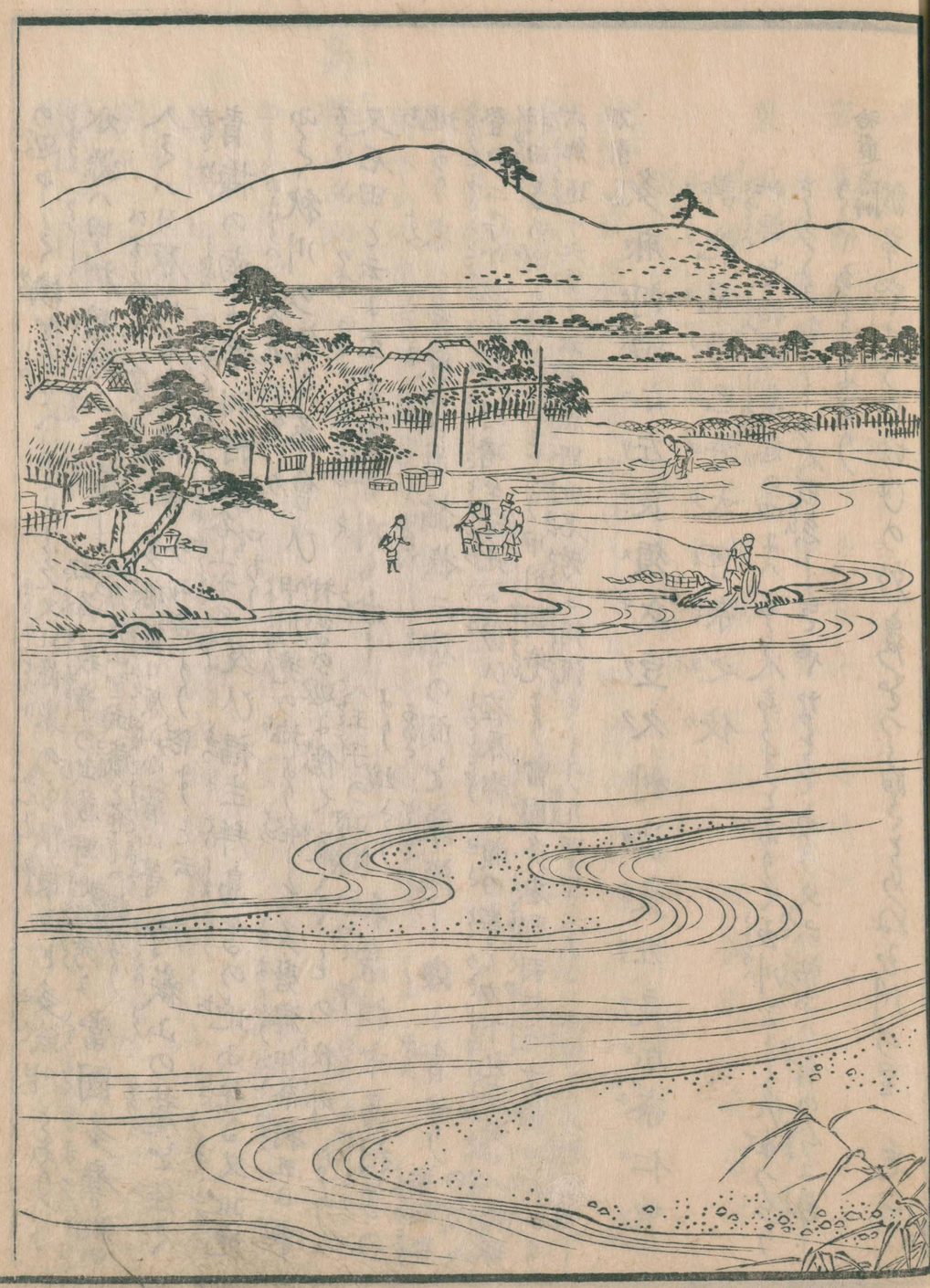
玉川の獺の魚

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

拾遺愚草

たばこうや
さゝす
垣根よ
彩雲城
ほゝき
ゝゆる
川の
里
定家



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

の辺やゝく滅をかせへしともゝえ又北條家の分限帳ゆゑと多波川とあり
水源ハ甲州丹波山より發し田澤義章の武蔵野地名考よ當國多摩郡
入こゝハ日原川も會流す此丹波山を武蔵と云ハ小菅山等御嶽山の麓を経く多摩郡日原より發すと云
青梅の南よ傍羽村四谷上水の掛口あり及ひ福生拜島等の地ゟ至る又此地
ゆく秋川の流も落會ひ甲州境の地より發して多摩郡伊奈村五日市
村等の辺よ傍て流ることの秋川なり
又石田と云よ至る浅井川も合し八王子の山間より出
地より末ハ多摩荏原橘樹三郡の間を東流し海よ會せり橘樹郡
登戸二子小杉平間河崎等の地よ傍ひ荏原郡ハ瀬田等くだり下丸子矢口ハ蒲塚
羽田等の地よ傍く流きり甲州國境より當國多摩郡羽村迄十餘里羽村より
六郷迄十六里と云武蔵野地名考よ周流きり九四里とあるハ水源よりの行程なり

万葉
多麻河泊尓左良須氏豆久利佐良左良尓奈仁曽
許能兒乃己許太可奈之伎
能兒乃己許太可奈之伎

此詠を拾遺集よハ人丸の作とあり又六帖よハ昔の今よ曇
さやうにもあり
拾遺愚艸
渡多やこゝを名所百首
玉川のふかゝらぬ世を契むとけなあれるゝ 家隆

武蔵國風土記曰 多磨郡 多磨河
出諸鮮及鵜鴨等亦里人作調布納内蔵寮云云
東鑑曰仁治二年辛丑十月二十二日丙子以武蔵
野可被闢水田之由儀定訖就之可被懸上多磨河
水之間可為犯土之儀云云
此河ハ武蔵野の勝槩ゆゑ多磨川の水を用水ゟ引入権輿なり
多摩以東ハ平地ゟく長流の徑ゟ往く観を改め亦勝景あり
あゝ鮎を以く此川の名産とす故ゟ初夏の頃より晩秋の頃迄
都下の人遠きを厭ゟそこゟ来り遊猟せり
高幡山金剛寺 高幢邑ゟあり 東鑑よ高幡三郎と云人の名あり此所より
ゆゑ花洛三宝院御門跡ゟ屬を大宝より前の開創ゟゝく
其後弘法大師再興すといゟ本尊不動
明王ハ古佛ゆゑ作不詳 座像一丈餘あり 炎光ハ布字十有九を刻し利益
脇士二童子化人の作なりとゟゝ 無辺自心堅固の相をあゝハせて化僧一人来り
寺記云或時忽然として二童子ゟきく云く此ゟゝ不可

高幡不動堂

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

なり予是を作らしむと住持話す依て僧ハ一室ゟ入て戸を閉敢て戸外ゟ不日やらく造功畢ぬ竟ゟ興僧ハ去て予ハ方丈ゟ云く室の地ゟ稲荷を勸請す

古鰐口一口　不動堂ゟ懸ル径一尺九寸文字九十四字を刻す銘左のごとし

敬白
奉懸
右尋當寺者慈覺大師建立清和天皇御願所第二建立斗円陽成天皇彼時頼義朝臣自於登山奉崇八幡第三建立永意得行寳両檀大檀那美作助真并記氏一宮田人鍋師源恒有文永十年癸酉五月廿日　銀念西守氏　鐵青蓮

服石　不動堂の後愛宕祠の傍にあり巾六尺ばかり高サも五六尺ばかりの石なり忌明の時土人此石ゟ請て後諸の佛神ゟ来泊すとぞ

二王門　左右ゟ金剛密迹の像を置

惣門　二王門の左ゟ並ぶ

額　高幡山　僧浩然筆

鼻井　庫裡の前左の方の山の裾ゟあり貫サ七尺斗の井泉を云相傳建武二年乙亥八月四日の夜大風発り声堂舎を顛倒す故ゟ平地ゟ引下ばとぞ諸人寒熱の二病腫物眼疾頭痛の者清泉涌出す後鼻井と称し一阿伽とす或ハ飲或ハ其痛所ゟ塗りて平愈せしとぞ

額　高幡山　僧正泊如筆

等其餘諸病とぞ

鎌倉大草紙曰享徳四年正月廿一日武州府中分倍川原へ寄来る成氏五百餘騎ゟく馳出短兵急ゟとり刻き火出る程ゟ攻戦ひる間上杉方の先手の大将右馬助入道憲顕深ゟ負ゟ引かへるゟ高旗寺ゟ自害ゟ鎌倉勢も勝軍ハ取云ゟ十人討死ゟく戦ひ疲ゟ分倍河原ゟ陣を取云ゟ縁起曰平山武者所季重幼ゟり當寺の不動尊を崇敬し世ゟ強勇の名を顕せり治美の頃平家追討の時も鎌倉の右大将家ゟ属し義経ゟ随ひゟく西國ゟ趣き一の谷ゟ勇を輝し武名世に明らけし故ゟ平後當山の頂ゟ此ゟ寺の御堂を建立を然ゟ建武二年乙亥八月四日暴風の災ゟ罹り殿堂破壊を依後平地ゟ引下ゟく大中臣文等ありとぞ

木切澤　金剛寺より半町ゟ西の方の谷を云平季重御堂建立の時此所より堂材を伐出しゟる旧跡なりと云伝ふ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

番匠谷　同しく一町そゝり西へ入谷を云是も季重河堂建立の時番匠の彫刻の地なりとぞ
別旅明神　金剛寺より三町そゝり東の方別旅邑よりく此地の産土神とす則金剛寺奉祀の宮社なり傳へ云金剛寺の本尊不動明王の脇士二童子を彫刻せし異僧その像を造り終るの後立去らんとす近里の道俗喜悦のあまり其跡を隨ひく此地まで来りしが此地に一社を建立し別旅明神と称す地名も又別旅邑とぞ
平惟盛之墓　金剛寺より一町そゝり西南平村平山村より農民又右衛門隣りに一人の構の中にあり青き一片の板石やゝく高サ七尺五寸巾二尺程厚サ二寸許りの上の方よきりく字を彫下に文永八年辛未中冬日と云り土人相傳へく平惟盛の碑なりと云往古此地に平助綱と云武士住せ平氏の遠裔なるに依て惟盛の菩提を弔ふ為歟造るや或ハ又助綱ら墓なりとも云同し南の方二町ばかり山を

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

登ること中腹ゟ又古碑あり剝落して讀へからず只茶の一字のみ鮮明なり高サ六尺餘巾二尺そるを下ハ土中ゟ埋む巾餘古石塔二基ありとも高サ四尺そりとも土人平山季重或又平氏の人の墳墓と云傳へて分明なることす此所ハ農民平氏某ノ家累世の此地邑名を平と称し殊に平氏の人多し里正平氏の家ハ小田原北条氏直の下し文あるところ

慈眼山松蓮壽昌禪寺　高幡ゟ十二町斗東南の方百草邑にあり

昔ハ茂草ゟ作る八幡宮社地ゟ源頼義義家兄弟奥州征伐凱陣の時山号并井を改る増威とすと云〳〵

して江戸白銀の瑞聖寺ゟ属せり昔ハ天台宗ゟして増井山と号し天平年間道璿の高弟釋道廣大勸進し始て七堂全備の精舎を創建すを後康平五年伊豫守頼義奥州下向の時此地をとのきりあひ松蓮寺ゟ投宿し八幡宮を再興ありしく朝敵追罰の御祈願あるゟ又建久年間頼朝卿以来源家累代の祈願所ゟ定られ建長七年當寺の住持祐慶相州ゟ琳長師を請して禪院ゟ改むとゝ慶長十五年松蓮寺方丈建営の棟札ある水尊釋迦佛座像三尺斗あり脇士八阿難迦葉の立像三尺なり佛師藤村中圓彫造もの所なりと云中円ハ華人やしく肥前長崎にありしとなり

享保六年辛丑八月廿四日炉窩

享保二年丁酉大久保加賀守忠英戻社号せり

夫人壽昌院殿慈岳元長尼中興開基なり

元長尼ハ享保六年薙染して壽昌院慈岳と称す常ゟ三宝を恭敬し竟ゟ當寺を再興本堂内陣の額松蓮壽昌禪寺の六大字及ひ總門額慈岳山等ハ何ゟも中興開山明慧極の筆なり本堂の前ゟ揚るる紫金光の額ハ隠元禪師の書なるも経筒三箇其銘文左のゟし一ハ銅を以製す長九寸二分口廣さ四寸五分

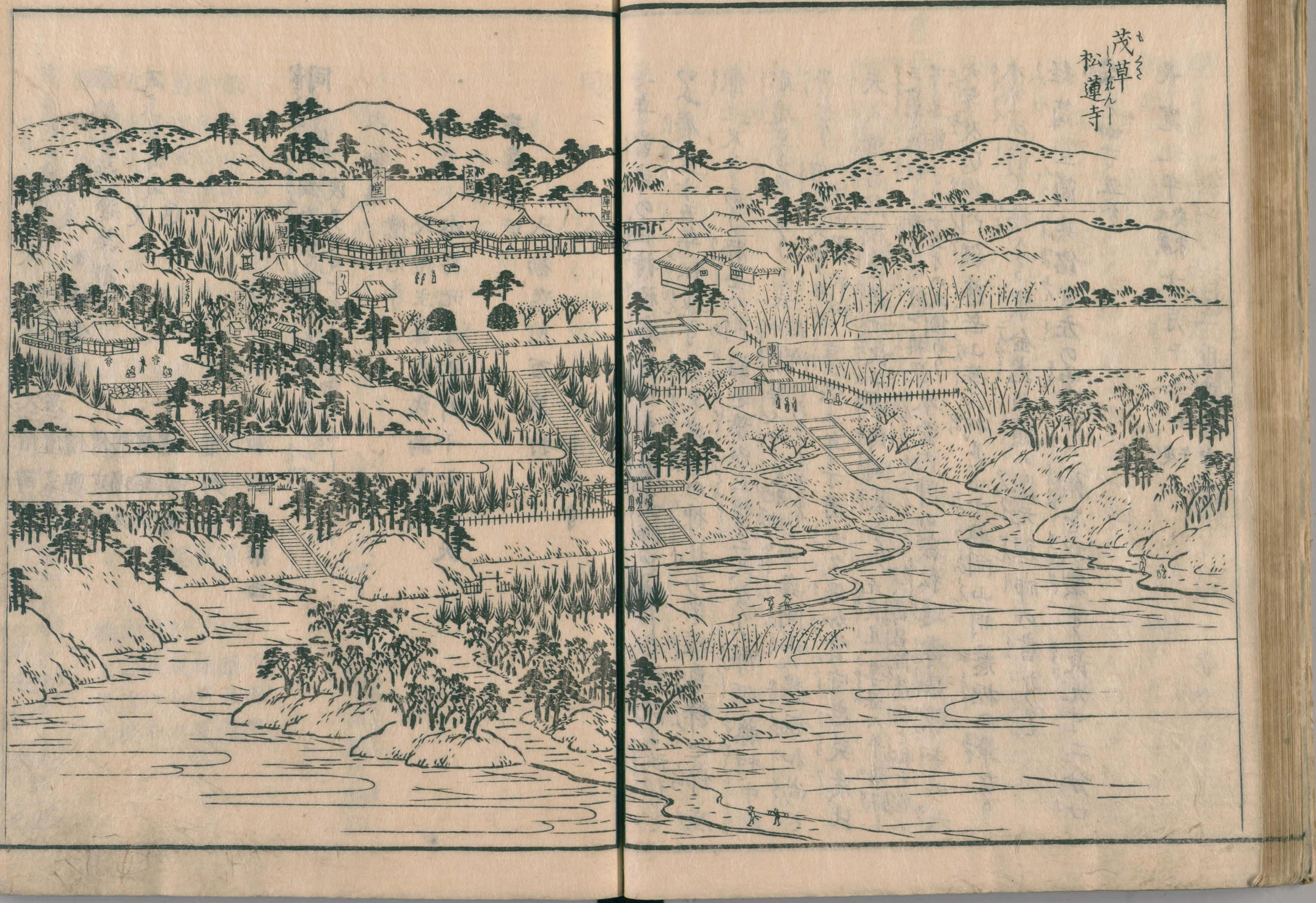
長寛元年癸未歳十月十三日庚午

工匠藤原守道

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

茂草松蓮寺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

大勧進聖人僧辨豪
結縁者僧玄久
如法書寫僧觀賢
奉納妙法蓮華經僧定日
僧瑞定
僧阿定
僧尭尊
僧辨仕
僧樂西
辨意

同一箇銅を以て製す長七寸五分口廣さ渡り四寸一分其文左の如し

大勧進
僧尭尊
大檀主藤原氏満貞
永萬元年九月十七日天

其蓋裏曰
大勧進所百草村
松連寺

同一箇金銅を以て製す長五寸口渡り三寸一分其文左の如し

奉
釣命
日本幕下
一宮別當
建久四年
八月
松連寺
修之

八幡宮本地佛阿弥陀如来像金銅一尺四寸あり土中出現の物にして佛躰の背よ鐫所の銘文あること左の如し

敬白冶磨金銅影像法体弥陀座光三尺六寸
奉為皇帝日本主君當國府君地頭名主
御願円満安穏泰平信心法主子孫平安
悉地成就師長父母乃至法界二親巨魂助成合力
同共往生大歳庚戌孟夏之天建長二年
大歳庚戌孟夏之天南閻浮提七平等利益
日本武州多西吉富七日壬子真慈悲寺
願主佛子慶祐敬白
施主源氏

按るに當寺の弥陀佛背面の銘文よ真慈悲寺の号を注せり東鑑文治二年二月三日の条下よ武蔵國真慈悲寺ハ御祈祷の霊場なりと記りとぺ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

とも荘園寄附なるゆえ妄よ僧あり今日参上して當寺より一
申請の御院主職は補せらるゝとありて仏事を南陽堂より
法皇四十九日の御仏事を南陽堂より又同書建久三年五月八日の条下ふを
悲寺より三口とあり又同書治承五年四月廿日の条下よ小山田三郎成多
摩郡内古冨并一宮連光寺等の地を自の所領は注しかれとも真慈悲寺ふの項廃せしや今ハ其旧跡さへさ
古冨ハ此辺なるべしと

八幡社記曰建久四年鎌倉右大将家法華経を書寫し供具の備なく僧ハ衣鉢の財を失ふ
其の書寫もる所の打紙法華経の文字多くハ打賤しく僧よ残るのみ
升井
本堂の後山麓よあり寺中
常よ是を撒せ尤清泉也

八國見
本堂の後の山の上ふあり此所ふ名とす又宝蔵と唱ふる地もあり今猶礎石こゝに
存せり古大伽藍ありしと

二王塚
松蓮寺より東南五丁そありを
俗あやまり繁茂せし地をさして
のあるしより地なるべし

八分の観音の像
を露ちく得ざりしとぞ
今松蓮寺ふ
石祠打壊の刀剣数十挺華皿等のさらひ自然銅一寸
百草八幡宮
松蓮寺より西の方山の中腹よあり則松蓮寺奉祀の
宮なり八月十五日を以て祭辰とす本社向拝の額八幡宮と三
字ハ梅小路大納言定福卿の筆なり寺僧曰正殿ふ安置せる和の

神躰ハ八幡宮神宮王仁津戸明神武内大臣義家公等の木像
なりと云相傳孝平五年源頼義義家両公奥州の夷賊征伐の時
山城國男山正八幡宮の社檀の土を穿ちて石祠ふ盛来りく一宇の
社を造営して此地よ勧請なしぬ願書等を収めらるゝ其後
徒悉く平け凱奇の時再此地ふ至りひ金銅の観世音の像
をも安置し永く祭祀を不打(下よ詳なり又此時五百石の祭田を寄附

一宮大明神社　百草八幡宮より十五六町北の方　多摩川の南岸一宮村にあり　六所宮より八西南一里あまりを隔つ　祠宮新田氏大田氏両家より奉祀を祭神ハ天下春命なり後瀬織津比咩及び稲倉魂大神を合祭して三神一社三扉とす　祭神今ハ小野神社よ同し　舊事本記ゟ饒速日命此葦原の中津國ゟ降臨しまし時輔佐とゝく隨駕しまるを三十二神の其一神ゆゝく即三十二國ゟ分降ありて時信濃國へハ天表春命武蔵國へハ天下春命降臨なゝまひ國を開きまし

とこんそこくらと

社司相傳神代の昔當社下春命此地ゟ治め狹今そこくさはあゝす社傳ゟ一宮下春後ゟ國ゟ神倉稲魂命を配祀けり小野神社三神となせハ命小野宮村ゟ小野神社へ遷座ありて天皇の御宇國造兄多毛比命武蔵國多摩の地ゟ府を定られし時世詳ならす然れ共一宮ハ開國の祖神小野宮ハ同郷の旧社なるゟハ國造崇敬ありて倉稲魂命と共ゟ合せく再ひ六所の宮の相殿ゟ遷せしとかや又毎歳五月五日六所宮大祭の辰當社の祠官舟中ゟ玉ゟ一宮小野三所の神輿を供奉しまつりて旅所ゟおゐて又供奉して六所宮ゟ至ゟ神輿帰社の内殿ゟおゐて祭奠となす

一宮大明神社

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

桜の當社一宮の旧史ホ所見なし既ホ地名を一宮と号称しまた一宮と稱し國の祖神第一ホ鎮座なり
地名旧祠なる歟へしもあるべし依考ふるホ東鑑治承五年四月二十日小山田三郎重成平太弘貞ら所領を注し加へ云条下ホ多摩郡の内吉富なるホ一宮蓮光寺なるの地名を載せ百草村松連寺所蔵の建久四年の経筒ホそ一宮別當祐連寺と銘せりあるは時ハ建久の頃ホ一宮別當祐連寺と稱せしなり又高幡村金剛寺ホ存する和の文永十八年の鰐口の銘ホも一宮田人銅師源経貞
一本榎 一宮より南の方半町をかりを開て耕田の中ホあり樹の木に注連を繞らせり土人百草八幡宮の一鳥居の旧跡なりと云此所より百草の八幡宮へハ半間
凡十町を
横溝八郎墳墓 小山田旧関の地より一町あまり西南道より右の方の畑の中ホあり塚上松槻等の老樹繁茂せり太平記ホ正慶二年五月十六日新田左中将義貞公武州分倍河原へ押寄ることホ条下ホ四郎左近奏入道相模入道の舎弟大野なりとも三浦ホ一時の謀ホ被られて落行ホそ慧性と号ひ野ハ散くホ鎌倉をさして引退く討る者ハ數を不知大将左近入道も関戸辺ホ及ひ討れぬくと見えたるホ横溝八郎踏止りて近付敵二十三騎時の間ホ射落し主従三騎討死を安保入道道堪父子三人相隨ひ兵百餘人同扰ホ討死を其外譜代奉公の良徒一言芳恩ホ報ハ軍勢共三百餘人引返し討死して身を捨なんと山内迫引れて行ホそ安保入道父子の墓も今あり
小山田醒旧址 今関戸と称するハ則これなり
構の中ホ古墳あり上ホ槻の古樹茂れり相澤氏の説ホ安保入道の墳墓ホ相違なしとも何人の墓の印ホあらす
旧址ハ此地ホ天守臺と云所あり此頂より眺望すれハ多摩川の眼下ホ玉川の流を平臨し又遥ホ上下野州近一望ホ入る
南岸ホそひて古府中より帝都及ひ鎌倉への街道あり東奥北越の二道共ホ此地を往還せるハなり
小山田ハ荘の名ゆゑしなり今ハ邑名ホのこり殘まれる此所より二里ホそ南の方ホ小山田村と称せることなりあり
夫木抄
多摩川ホ曇りて黄氏ホ小山田の宴
六百番寄合
ゆふされハ苔代水ホ引そへてそこともわかぬ小山田哉 顕昭
或為世人ホ加
東鑑曰 治承五年 四月廿日 小山田三郎

国立国会図書館 タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

小山田旧関戸惣図

六百番奇合

小山田の実

頸昭

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

重成聊背御意之間成怖畏篭居是以武蔵國多摩郡内吉富并一宮蓮光寺等注加所領之内去年東國御家人安緒本領之時同賜御下文訖而為平太弘貞領所之旨捧申状之間糺明之處無相違仍被弘貞也云云

同

書曰　建暦三年十月十八日　以宗監尊

為武蔵國新開實按被遣圖書允清定奉行云云

甚地関ヶ原加茂ヶ谷ヶ岡ヶ等ハ此小山田ヶ村ヶ内ニ有之

自摂令所ニ付ル証文如件

元和九年九月廿三日　有山源右衛門

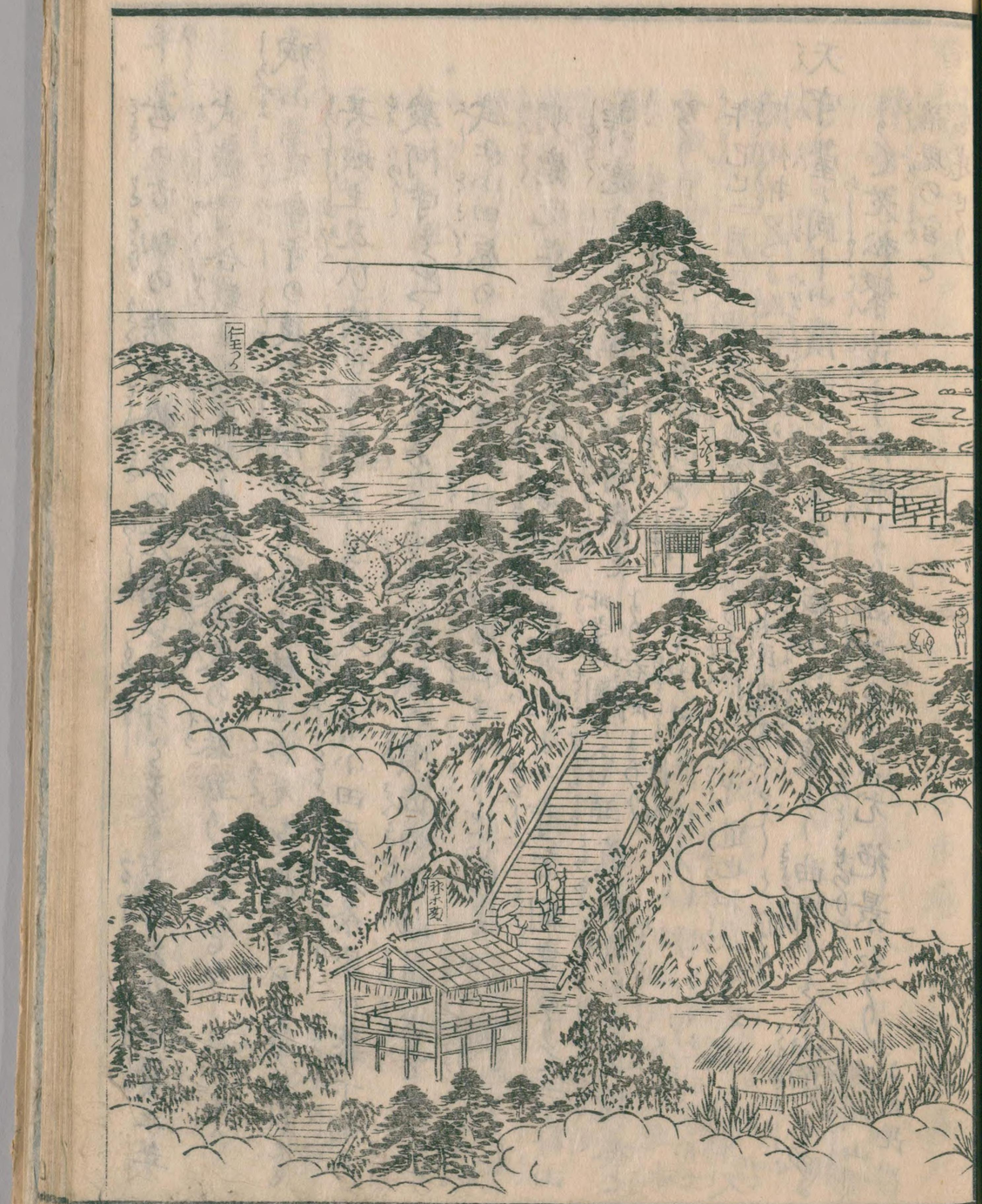
憲秀　花押

此地ハ昔鎌倉時世関を居られる旧跡ゆゑ建久の頃ハ鎌倉の右大将家浅間三原及ひ入間野等へ御狩其餘陸奥上毛信濃越後等へ軍を發しゐる時ハ必しも関戸口の大将を定られしゐる諸書ニ載るゝも太平記ニハ元慶二年合戦の条下ハ義貞数箇度の戦ひに打勝ぬと聞えしかハ東八箇國の武士とも順付ゐ雲霞の如く関戸ハ一日逗留ありく軍勢の着到を着らるゝゆゑ六十萬七千餘騎とそ注るとあるゆゑ此所のことなり

延命寺　壽徳寺より三四町南の方道より右側にあり地蔵院と号時宗ゆゑ相州藤澤の清浄光寺ニ属せる地蔵ハ立像一尺五寸そうそうあり作者詳ならず開山を普國上人と号す門ハ入口

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

さきと関戸天守臺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

右の方畑の傍よ椹木の老樹を以印とする古塚あり正慶二年
武蔵野合戦ょ討死せし四百餘人の墓なりとぃふを
城山 延命寺の後の山續をいふ土中稀よ古瓦を得ることありとぃふ
其城主及ひ時世等詳ならす土人云昔小田原北条家の幕下関戸
駿河守とぃふ人ここにありとぃふ又ハ永禄の頃佐伯市助道永といふ
武士小田原の北条家ょ仕へ此地ょ住せるとぃふを故ょ此所を佐伯谷
明徳元年庚午念阿護法入道此地ょ一寺を創建ありて吉祥山
壽徳寺と云禅院を再興をより右側ょあり 此寺ハ関戸入口道道永自ら中興開基と
なり日尊宗恵大和尚を請じ中興開山とぃふ 道永ハ市助法名を道永庵と称せ永禄十二
年己巳二月三日陸奥小田原没落の時道永の子孫三河守道也和泉守道安同隼人
天守臺 同し山續の方よあり城山の半腹より曲折して山頂まで
後拓る人等皆此地ょ住し終ょ民間ょ下りぬ
まて老松繁茂す此所より四望をるふ尤絶景なり
(権現の宮を遷せり)

皆切坂 下関戸の宿の南の坂を云坂の上を古市場と唱ふ昔商戸
驛舎ありし地なるも天正已来此地の古道廃して今ハ名のみとなれ
ともされとも府中より横切て相州矢倉澤大磯等への官用の次
場なり 今も相州大山石尊冨士詣抔相傳ふ平七年壬二月八日武蔵野
常州野州辺より此道ふかもり合戦の時新田義貞公脇屋義治公終ょ二百餘騎ょ討なされ御方の
勢も散々ょ行方もなくなりしかハ迚も討死をするもハ鎌倉へ
打入んと定利左馬頭基氏ょ逢ん命を失ハんと夜半過る頃関戸を
過ぬひろふ石堂入道三浦介等の五六千騎の勢ょ出逢ひ神
奈川を径鎌倉へ打入勝利を得んと頃此坂より馬の沓をそろ
そたせあやまち打ぬやと依て名とすとぃふ

赤坂臺 関戸より十六七町東の方蓮光寺村を横きりて赤坂と号
く坂を登れハ赤坂臺なり一里半斗を径て河原谷と云地あり
平臺 赤坂臺の東の續をいふ此所ょ三圍よありふる老松一株あり

土人甚兵衛松と字せし此地ハ矢の口より屈す

騰雲山明覚寺　矢の口村街道より南の横より渡し場の南拾五町あまりの地に臨済派の禅林にして鎌倉建長寺ハ屈を本る釋迦如来唐佛にして座像八寸ばかりの石像を當寺ハ往古足利義晴公建立なり佛刹にして其後廃寺となりしを慶長年間加藤太郎左衛門再興して菩提寺となせと云中興開基ハ揚雲和尚永禄四年ごと号當寺に中興す

長坂血鎗九郎陣中守護の為鎧の中ふ篭まりしと伝ふ伽羅の正観音を彫造して今猶馬場の旧跡なりと云観音を安置せり立像三寸ばかり弘法大師の作とぞ今ハ一尺斗の小澤小太郎居宅旧地　當寺境内の辺を云

称する地あるを又當寺の前より小高き岡ありて蔵地下と号く平頃兵粮を収る倉の跡なりと云次の小澤の城址の条下ふも小澤某の名そ艸原山威光寺　同所明覚寺より道を隔て一丁斗向ふ側二丁斗左へ入ると新義真言宗にて坂濱高勝寺ふ屈を本るハ大日如来座像三尺ばかり當寺ハ穴澤天神の別當なり

悉く焼亡せり旧記を

東鑑曰　治承四年庚子十一月十五日　武蔵國威光寺者依為源家元被奉免之云云

同　僧河相秉之僧坊寺領如元暦二年十月十三日　武蔵國威光寺院主長栄為惣小山太郎有高被押領寺領之由捧文書曰　治元年九月五日　威光寺須之由寺僧擇解状仍令停止其妨任例旨可被経仰寺用若有由緒者令奏上政所申也下畧

同　書曰　小山太郎有高押妨　威光寺主僧擇解状仍令停止其妨任例旨可被経仰寺用若有由緒者令奏上政所申也下畧

同　廣藤判官代以下畧

東鑑曰　治承四年庚子十一月十五日　武蔵國

國安宮 威光寺

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

称するものあり此地より程遠からず東江戸の權司谷八其間七里隔つへしされとも當寺八天明年間の火災ニ旧記亡ひ多日訂正をくさのこと古を考へ合まつさたまりなし獨

國安明神祠　威光寺の南五十歩斗を隔て同一側左の小道を三十歩斗入てあり神主山本氏奉祀す神躰ハ左のめきさのふして世ニ云所の鋳形の神像なり相傳ふ往古小澤左由門尉國高此地ニ逍遥あり一頃松樹の下ニ白髪の老翁現し尓領す國高此地ニ逍遥あり一頃松樹の下ニ白髪の老翁現し尓しそ曰く我ハ大國主神なり此地ニ崇祀らハ万民國安かるへしと云國高寺異の思ひをなし宮居を営んてたゝふ國安明神と崇め祭る社領の地八百五十坪を寄附ありく武運長久なるんを祈念すとそ

按ニ小澤左由門尉國高ハ東鑑ニ挙る所の小澤次郎重政同左近将監信重なとの氏族の人なるん其時世今天蓋なと付こりと覚しき跡あり下の方ニ

國安神像

銅物高六寸四分

花瓶のめきさのあり

上の方ニ口あり神躰

僧形ふたく宝珠と

劔とを持しの

形なり

穴澤天神社　谷口邑威光寺より東北の方三町斗を隔て同一往還右の方小道を入てあり社ハ山の中腹ニあるも此辺を小澤ヶ原と唱今祭神詳ならす後世菅神を合祭せり祭礼ハ七月廿五日なり又同日神楽を修行し九月廿五日ニ獅子舞を奥行も別當ハ真言宗ニて威光寺と号せ

延喜式神名帳曰
穴澤天神社云

武蔵國
多磨郡

谷之口

穴澤天神社

此辺傍を小ぼ原と号く
社の後の山頂ハ小澤城跡
重政文明の比し金子掃部助
此城を構へ
吉里宮内左馬の扇
ハ下桜山より
打て生ひ
を
茂りの
頃
すゆ
経念
大ま
死ま

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

武蔵國風土記残編曰　武蔵國　多磨郡
　穴澤天神　圭田三十六束三毛田　荅安天皇
　四年壬辰三月所祭少名彦神也云云

當社の麓を澗水流れて多麻川へ合せ其流を隔てゝ山岨より一の
巖嵓あり故よ穴澤の名あり昔の巖洞ハ崩れたりとそ今新よ堀
穿てる洞穴あり洞口ハ一ヶ所ゟ内ハ二ッよ分てあり
小澤城址　谷口天神の山續淺間山の西よ亜へ東臨よ元久二年乙丑六月
廿三日稲毛入道大河戸三郎ゟ為よ誅せらるゝ子息小澤次郎重政ハ宇佐美與一
是を誅せんと又同書よ同年十一月三日小澤左近将監信重綾小路三位師季ゟ
息女を相伴ひ京都ゟ泰着を行光を以文の由を尼御臺よ啓せ下畧又
同月四日夜よ入綾小路の姫君尼御臺所の使亭よ泰らる御猶子ゟ(稲毛入道遺領ゟ)
武蔵國小澤郷　知行せるへきの由仰らるとあり鎌倉大草
紙よ文明九年長尾四郎左衛門尉景春山内上杉の家務職を兼ら
さるを憤り逆心を企頭定を亡さんとそ武州相州の内一味同心ゝ
兵を催し上杉家を襲ふとある条下よ金子掃部助ハ小澤と云
城よ楯籠る間大田左衛門入道下知とゝく扇谷ゟ勢を遣し同
三月十八日溝呂木の城を攻落を同日よ磯の要害を責らる一日防
戦ひ夜よ入ゝれハ越後五郎四郎ゟ城を渡し降泰也夫ゟ
小澤城へ押寄攻ゝとも城難所ゟ景春一味の宝相
寺なゝゝ吉里宮内左衛門尉以下小澤の城の後詰として横山ゟ
打出當國府中よ陣を取中畧同年四月十八日金子掃部助ゟ籠ゟる

小澤の城も責落をゝゝを

向の岡　今向岡と称する地ハ多麻川を北よ帯て西ハ関戸ゟ發ゝ
東ハ末長よ終るとの是なり連岡の長九六里あまりあり
或ハ云今向の岡と称する連岡向の岡ハ市ゟ武蔵國風土記残篇ゟより
て考ふるよハ多磨郡北ハ向の岡よ限ることあるを以ても地よあらさるよ
ゝゝ然ら同郡狭山ハ南北東西五里八國山ゟり東
西二十里の連岡なり四方共よ武蔵野ゟ故よ向の岡と称する地ハ都統ゟ遠ゟ
なゝんと云ゝり依て今向の岡と称する地ハ都統ゟ遠ゟ住
なゝんとも昔ゝ是をゝゝふ挙るのゝ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

武蔵國風土記残編曰
多磨郡東限草窪　岡西限金川　南限華田浦　北限向
岡云云

新勅撰　武蔵野の　小町
武蔵野の岡よりはるかに見わたせば
霞ぬきたる遠村の雲
續古今　知家
野も狭く茂る草葉も打なびき
分行く袖に露ぞこぼるる
玉葉　後一条入道
秋雲の絶間をわけて鳴く雁の
同　定家
ゆくへも知ぬ秋の夕暮
夫木　為家
武蔵野の岡の小草の露ながら
かりそめならぬ秋の夕暮
(ハ)家集　後鳥羽院
武蔵野の岡の小松原風もなきまでそよぐ秋の夕暮
(ニ)林名所考　隆源
夕日さす岡の小松の末毎に
都筑の岳　綴喜或撰　我よ作る
横山なる　小佛の嶺より小山田里迄ハ多磨郡ニ属せり平山或ハ
既ふ古奇ゆと玉の横山と　詠せる皆此間にあり又官林の
案内山と云より神奈川迄の間ハ都筑郡ニ属せり南北ニ高底多く
坂東路几百里あまりなを續く　なふつきの岳の名ありとぞ

青沼明神　同所長沼村八王子通道の傍にあり　祭神　大田命猿田彦
大神二神なり　勧請の初を考ふるに社司福島氏奉祀を祭禮も
八月十五日なり　太平記ニ正平七年閏二月小手差原合戦の条下ニ将軍の陣へ
馳参る人々中ニ長沼判官云々
按ニ當社ハ延喜式内青渭神社なるべし　此地ハ多磨郡ニ属せり
和名類聚抄ニ武蔵國七郡ニ渭後郡ニ属せり　此辺地名を載ス
然る時ハ當社を以延喜式内の青渭神社とも拠あるべし　猶乃之利と訓も
猶後人の考を俟のみ
仙谷山壽福禪寺　谷の口の東の山續矢の口渡し場より十三町東南の方
菅村ニあり
創なしと雖も佛刹なりとぞ　昔ハ天台宗なり　建長寺の大安禪師の時
より禪林とす　今ハ曹洞汎となりて越前の永平寺ニ属せ
本堂本尊十一面觀世音　相傳ふ　鳥佛師の作　同雕なりとぞ
鐘　右ニあり　井田六郎右衛門尉某應永七年庚辰當寺住持の沙門比丘宗四の願ニ
鐘を寄進す　破裂ふよりて寛文二年鋳改ふ　當寺住持監融峯の文ふ
阿弥陀堂　同し左ニあり　善應殿と号す　本尊ハ座像四尺五寸　作者不知
鎮守宮　左右ニ地蔵多門ホの像を安す　八幡稲荷
大黒辨天の四座をまつる　擁護廟　指月搗
當寺ハ外の流ニ属ふ　按ニ當寺十境の一なり　是も十境の一なり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

壽福寺

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

天璣部
　日
　月
　星
地部
　谷中
　　鶯谷
　　三崎
　　上野山内
　　下谷
　　広小路
　　池之端
　　不忍池
　　弁天社
　　清水観音堂
　　五重塔
　　鐘楼
　　経蔵
　　大仏殿
　　仁王門
　　黒門
　　坂本
　　入谷
　　金杉
　　三河島
　　日暮里
　　谷中
　　天王寺
　　感応寺
　　天王寺門前
　　天王寺墓地
　　天王寺五重塔
　　天王寺鐘楼
　　天王寺経蔵
　　天王寺大仏殿
　　天王寺仁王門
　　天王寺黒門
　　天王寺坂本
　　天王寺入谷
　　天王寺金杉
　　天王寺三河島
　　天王寺日暮里
　　天王寺谷中
　　天王寺感応寺

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

標して以て寺の遠大を祝せ後建長曜侍者虚空蔵経一軸を勝ちるのみ
康平年間八幡太郎義家奥州征伐出陣の時中路並よ宿を其頃當石室善邪禅師の手墨銀杯一寺に寄す
寺本ゐる不開運を祈る後果して感遇を獲ると昔小澤小太郎重政毎
晨歩を像前よ旋しく現當の善因を修す然よ兵災よ遭ふ寺宇既に
敗壊せるの年久し爰ふ鎌倉建長寺の大安禅師大方慶和尚此地よ
卓錫し荒廃を興し始く禅風を振ふ僧俗雲集を或云建長寺八十四世法慶
和尚是なり大方慶といふ誤なり
慕ひ参謁せるの次三個の殿宇を造営せられしとなり
殿擁護廟是也

展翼峰　壽福寺の左よ儼そる山を云俗よ神明山とふその形鳥の翼哉
展るゝ如し故よ号とす相傳當社神明宮ハ昔小机より飛来こゝに
鎮座なしまひしと云　壽福寺境の一なり
浅間山同し山儼ふしく山頂よ浅間の小祠あるふ名とす土人ハ城の浅間山
と云是も壽福寺十境の一ゆしく光聡崖と号す荊棘を刈き小
徑をまけ登るゝ数十歩絶頂よ至り崖よ臨そ眺望されハ眼界
窮竟とふく山水の美筆端よ尽しかたし
浅間の祠あり小澤の城趾と称する下りく小澤の城
地あり小澤の城の下よ詳なり

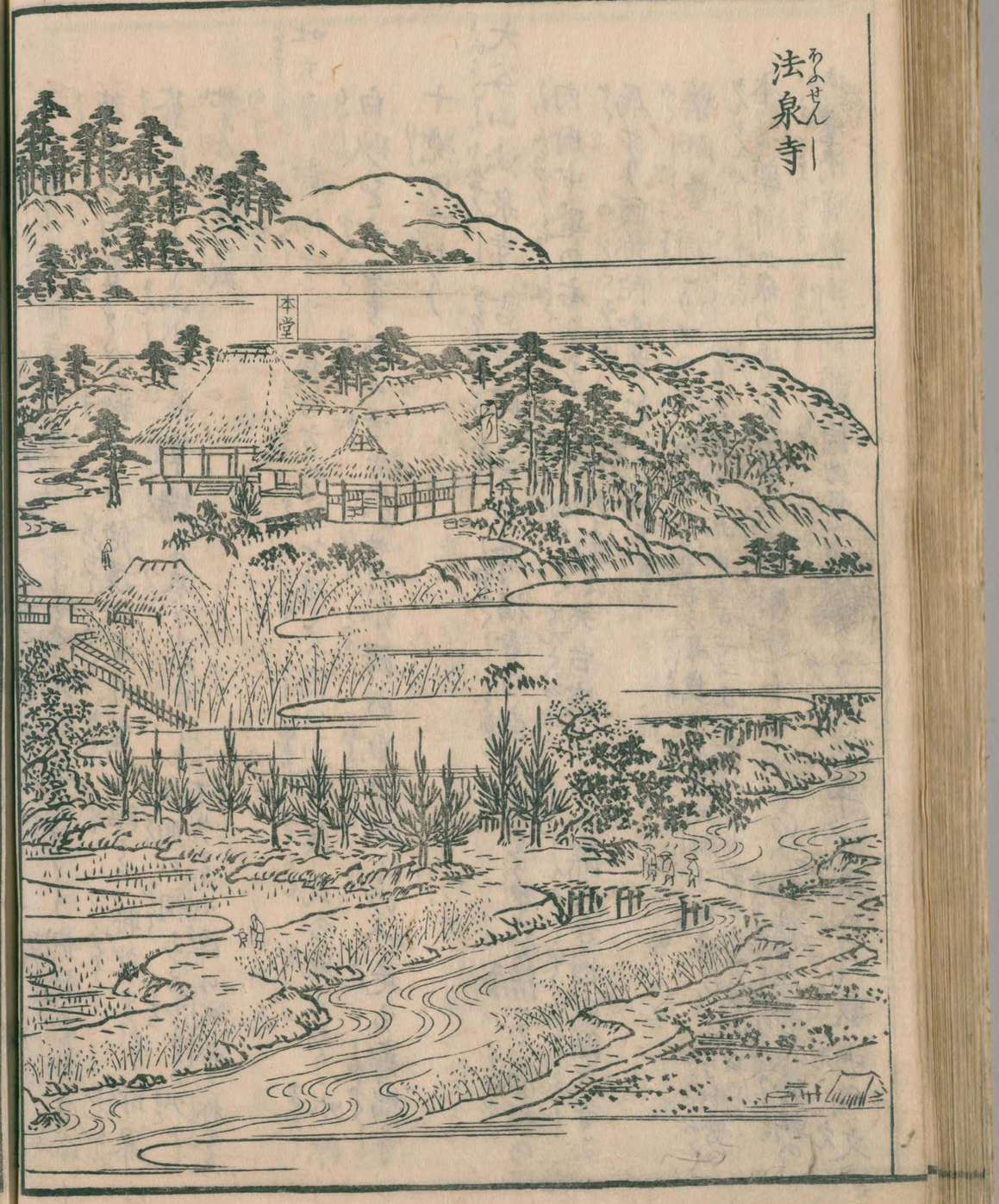
吐玉泉　壽福寺より後の方の谷を隔く西の山際農民の地よあり水源
白砂を吹出せ方ふ号とふ昔ハ小澤の白清水ふゝ是も壽福寺
十境の一なり

大谷山法泉寺　吉祥院と号を壽福寺の南十町そゝを隔て菅村の
内府中道の右よあり稲毛領小澤郷よ属ス天台宗ゆしく深大寺村の深大寺よ
属せり阿弥陀如来を本尊とす

薬師堂　寺より西の後一町半そりふあり毎歳八月十二日ゆそ此日もをそる賑ハしく
て踊るとあり又縁日八九月八日十二日ゆ
本尊薬師如来の像ハ慈覚大師彫造しふゝとの
御臺所常盤御前護持の霊像ふり文治三年丁未八月歳山の文

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

法泉寺（ほうせんじ）



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

顕阿闍梨此地の領主稲毛三郎重成と共よ謀り當山を開き一宇の梵刹とし此靈像を安置せしより後平政子御前崇敬あつて其頃頼朝卿よりも香花の資料とし當國高麗郡の地を寄附せしより建久八年丁巳頼朝卿當寺へ詣しより又康元二年丙辰五月頼嗣公頼経公の菩提のため御堂再興なしより大佛藍となりしより正慶建武の兵乱よ廃壊せしより後旧貫よ復せるなどもと鎌倉唐木小机等より二品ハ頼朝卿の寄附なりと云傳へ當寺の什宝とす

江戸名所圖會天璣之巻畢

江戸名所圖繪全部廿巻目次

壹之巻三冊　日本橋本町通神田小川町飯田町兩國靈巌島八町堀築地鐵炮洲芝口愛宕下西久保赤羽根三田魚籃白銀芝浦

二之巻三冊　品川驛大井鈴ヶ森池上矢口大森蒲田八幡六郷川崎鶴見生麥神奈川本牧程ヶ谷杉田金澤

三之巻四冊　外櫻田霞關永田馬場平川溜池麻布廣尾青山目黒碑文谷北澤世田ヶ谷澁谷四谷千駄ヶ谷代々木高井戸武藏野府中玉川向ノ岡

四之巻三冊　市谷牛込小石川大窪柏木成子堀之内中野小金井築土高田大塚雜司ヶ谷巣鴨板橋練馬大宮野火止

五之巻二冊　湯島上野日暮根津谷中三崎駒込王子川口豊島川

六之巻二冊　淺草下谷根岸山谷橋場千住西新井

七之巻三冊　深川本所龜戸押上柳島隅田川木下川松戸行徳國府臺八幡船橋

天保五年甲午孟春

日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛

淺草茅町二丁目　須原屋伊三郎

出版　未春

發行

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

124
20
114

三都發
行書林

京都寺町通松原下ル
勝村治右衛門
大坂心齋橋筋唐物町
河内屋太助
大坂心齋橋筋安堂寺町
秋田屋太右衛門
江戸兩國吉川町
山田佐助
江戸神田鍛冶町二丁目
北島順四郎
江戸淺草新寺町
和泉屋庄次郎
江戸芝神明前
岡田屋嘉七
江戸日本橋通二丁目
山城屋佐兵衛
江戸日本橋通二丁目
小林新兵衛
江戸日本橋通四丁目
須原屋佐助
江戸南傳馬町壹町目
須原屋文助
江戸神田通新石町
須原屋源助

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

124
20
114

国立国会図書館　　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用